

ナンバリング AA42N018		授業科目名(科目の英文名) カラダの見方・考え方(Ways of looking at Human Body)					区分・【新主題】 / (分野) 全学共通科目 福祉・地域		授業形式 対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	1・2・3・4	教・理工・福	後期		氏名 牧野 治敏(教マ) E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644												
授業の概要		人間の体がどのように扱われてきたのかに注目し、その背景にある考え方や当時の常識について考える。生物学を基礎とするが、歴史上のトピックをその当時の常識や現代の観点など多様な観点から検討し、科学的、社会的、歴史的な常識とは何かをクリティカルに考察する能力を身につけるとともに、多様な文化とそこにある共通性に気づくことをねらいとしている。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		人体描写をひとつ取り上げ、それに対する自分の捉え方を分かりやすい言葉で説明できる。						○	○										
目標2		唯物論的自然観に基づいてヒトの生物学的な位置づけを説明できる。						○											
目標3		西洋科学が日本の文化に影響を及ぼした事例を、一つ以上紹介できる。						○				○							
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		人の体をどのように見ているのかを検討することの意味について(授業の概略)																	
2		古代エジプトでの死体処理1:ミイラはなぜつくられたか																	
3		古代エジプトでの死体処理2:ミイラの加工法と後世での利用																	
4		古代ギリシャでの医師の仕事から命の考え方を探る																	
5		古代ギリシャ・ローマの科学の衰退と継承(中東諸国の役割)																	
6		陋習からの解放:ルネサンス期の画家たちは身体をどのように見たか																	
7		実践的な解剖学の復興:ヴェサリウスとその時代																	
8		進化論の意味:ダーウィンはどのように進化論を思いついたか																	
9		霊長類におけるヒトの位置づけ:反復説と幼形成熟説による人種の位置づけ																	
10		日本の事例:仏教思想による絵巻、江戸時代の人体利用ビジネス																	
11		江戸時代の医術:漢方医と蘭方医のせめぎ合い																	
12		ミイラ以外の死体保存術:諸外国の事例と南北戦争によるエンバーミングの普及																	
13		人のカラダの見せ方:絵、蠟人形、X線画像、樹脂加工、3Dデータ等																	
14		人のカラダを唯物論的に考える意味:臓器移植と脳死																	
15		性別をどのように考えるか:染色体・脳・外部形態など、生物学的性差をもとに																	
ラーニング目標		A:知識の定着・確認		○	授業中に理解を促すためのクイズを出す					工夫 その他	視覚的資料のある事例をできるだけ多く取り上げ、具体的な事物から話を進め、理解を促すよう工夫している。								
		B:意見の表現・交換		○	毎週の授業について、復習のための調べ学習や考え方を問う課題がある														
		C:応用志向																	
		D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修	関連事項の調べ学習(7h)																
		事後学修	参考図書を読む。授業で扱った事項に関する課題の提出(8h)																
教科書		使用しない。授業で提示するスライドの一部を配付資料として事前にMoodletに掲載する。																	
参考書		医学の歴史(梶田昭)講談社学術文庫 2003、近代科学の源流(伊東俊太郎)中公文庫 2007 人体解剖のルネサンス(藤田尚男)平凡社 1989、解体新書(杉田玄白、酒井シヅ)講談社学術文庫 1998、人体解剖図(ベンジャミン・リフキン他)二見書房 2007、人間科学(養老孟司)筑摩書房 2002																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	授業内容確認のクイズ					20%	○												
	授業ごとの課題					30%	○	○											
	期末試験					50%		○	○										
注意事項		解剖図、写真、ビデオ等を説明に使います。常識の範囲内ですが、苦手な人は受講選択の際に注意して下さい。																	
備考		教養科目(前期)「生命観の変遷」から派生した授業なので、内容が重なる部分がありますが、話題に対する考え方や視点は異なります。特徴的な事例について、主に絵画、壁画、彫刻、標本、ビデオなどを手がかりに考察します。生物学全般の歴史や知識を系統的、網羅的に学びたい人には向きません																	
リンク																			
		URL																	

ナンバリング AA45N121		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式													
		情報科学の世界(Introduction to Information Science)					全学共通科目 自然・科学		対面													
		*大分を創る科目																				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択		2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期		氏名 中島 誠 (理工) E-mail nakasima@oita-u.ac.jp 内線 7884															
授業の概要		我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は、数値や文字であったり、音声や画像で表現されたりとその形態が様ではない。また、その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論体系で、日常生活において我々が最も恩恵を受けている学問といっても過言ではない。この講義では、情報科学の基礎的な考え方を学修し、さらに、コンピュータによる情報処理についても学んでいく。																				
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		情報科学における考え方には多くの視点があることに関心をもち、それらを説明できる。									○											
目標2		世の中にあふれる情報を収集・活用する適切な手段を選択できる。									○											
目標3		情報科学に関連した技術について興味を持ち、基本的な課題や原理を説明できる。										○										
目標4		現代社会における情報科学・情報技術の様々な応用場面を把握し、説明できる。										○										
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1 情報洪水に溺れないように（1）（講義ガイダンス含む）：インターネットの歴史と基本技術																						
2 情報洪水に溺れないように（2）：電子図書館とサーチエンジン																						
3 情報の探し方を科学する：情報検索に関わる種々の技術																						
4 ソフトウェアを記述する（1）：ソフトウェアの特徴と設計方法																						
5 ソフトウェアを記述する（2）：プログラミングへの招待																						
6 人間とコンピュータのリアルな関係（1）：知能ロボット																						
7 人間とコンピュータのリアルな関係（2）：xR技術																						
8 コンピュータの中で音はどう表現されているか（1）：コンピュータ上での音の表現																						
9 コンピュータの中で音はどう表現されているか（2）：音メディア処理																						
10 百聞は一見に如かず（1）：コンピュータ上での画像データの表現と処理																						
11 百聞は一見に如かず（2）：パターン認識の原理																						
12 安全・安心なコンピュータの作り方（1）：コンピュータの構成とその設計方法																						
13 安全・安心なコンピュータの作り方（2）：信頼できるコンピュータの設計技術																						
14 計算機科学と自然科学：数値計算、並列計算、シミュレーション																						
15 計算機科学とデータ科学:データサイエンス，機械学習，人工知能																						
ラーニング目標		A:知識の定着・確認		○		トピックごとに、理解度の確認あるいは、各自の意見を問うレポート課題や小テスト等を出題する。宿題として受講生自身の情報収集による事前の下調べを科す場合もある。					工夫 その 他の											
		B:意見の表現・交換																				
		C:応用志向																				
		D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安		準備学修	レポート課題や小テスト等（各担当教員の指示）の内容により、図書館等での事前の下調べ（15h）が必要となる場合もある。																			
		事後学修	授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(30h)																			
教科書		教科書は用いない。																				
参考書		適宜、参考資料を配付する。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レポート課題					70%	○	○	○	○												
	小テスト					30%	○	○	○	○												
注意事項		工学部知能情報システム工学科ならびに理工学部共創理工学科知能情報システムコースの学生は履修不可。すでに全学共通科目の「コンピュータ科学入門」を修得した学生は履修不可。																				
備考		古家賢一（理工），高見利也（理工），大竹哲史（理工），紙名哲生(理工)，行天啓二(理工)，池部実（理工），賀川経夫（理工），佐藤慶三（理工）も合わせて担当する。																				
リンク																						
		URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	中島誠（開発者），古家賢一（研究員），紙名哲生（研究員），行天啓二（システムエンジニア），佐藤慶三（システムエンジニア）
実務経験を いかした教 育内容	情報処理技術について，企業等での実際のシステム開発，情報収集，研究開発などの経験を織り交ぜながら，解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】 / (分野)		授業形式									
AA42G116		学習意欲の心理学(Psychology of Motivation and Learning)				全学共通科目 福祉・地域		オンライン (オンデマ ンド型)									
		*大分を創る科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・ 理工・福	後期		氏名 鈴木 雄清 (IR・教マ)											
						E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069											
授業の概要	知識社会の到来に伴い、生涯を通じて主体的かつ継続的に学習することが求められるようになっている。そのためには、自ら学習への意欲、動機づけを高められることが重要である。学習意欲に関する心理学理論は多数ある。それらの理論のいくつかを取り上げて紹介し、自分にあった方策を活用して学習意欲を高めることができるようになることをめざす。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学習意欲に係わる心理学の理論を説明できる。							○									
目標2	学習意欲の問題に対して、解決案を示すことができる。								○								
目標3	学習者として、意欲を高めるための方策を選択し、活用できる。											○					
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	オリエンテーション・欲求段階説とERG理論																
2	協同学習の要素・アイスブレイク																
3	学習スタイル																
4	学習意欲と報酬																
5	自己効力感・ピグマリオン効果・マインドセット																
6	学習性無力感と楽観主義																
7	フロー経験																
8	集中力を高める																
9	マインドフルネス																
10	学習と運動																
11	アドラー心理学																
12	ライフスタイルと学習																
13	自己調整学習																
14	学習意欲に関する教育経験の振り返り																
15	ARCS動機づけモデルによる分析																
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	小テスト、演習、省察ミニッツペーパー課題、フォーラムでの意見交換					工夫その他の	オンデマンド型（非同期型）オンライン授業								
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	必要に応じて配付資料等を用いて予習する。これまで受けた教育での動機づけについて振り返る(1h)。															
	事後学修	小テストや資料等を用いて復習する（10h）。課題の完成度を高める(20h)。学習の動機づけ方策を実践する(14h)。															
教科書	教科書は指定しない。 必要に応じて、資料等を提示する。																
参考書	John M. Keller(原著)、鈴木 克明 (翻訳)『学習意欲をデザインするーARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房、2010年、ISBN9784762827211																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	小テスト		10%	○													
	タスク・ミニッツペーパー		70%	○	○	○											
	最終課題		20%	○	○	○											
	すべての小テストおよび最終課題の合格を単位取得の条件とする。																
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング AA45N019		授業科目名(科目の英文名) 電気の世界Ⅱ(Introduction to Electrical Engineering)					区分・【新主題】 / (分野) 全学共通科目 自然・科学		授業形式 対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期		氏名 戸高 孝(理工) E-mail todaka@oita-u.ac.jp 内線 7823												
授業の概要		この講義では、工学系の基礎的な勉強をしていない学生にも対応して、最近の話題を含めて、やさしく電気の世界を学ぶ。導入では、電気の基本的な考え方や法則を理解し、その応用について学ぶ。また、最新の電気技術のいくつかを取り上げて解説する。課題では、電気に関連した新しい技術や話題を調べて、その基本的な考え方を学ぶ。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1		電気に関する基本的な用語を理解し、説明できるようになる						○											
目標2		電気に関連した現象とそれを支配する法則を説明できる							○										
目標3		基礎的な電気回路の計算ができる						○											
目標4		電気磁気現象を応用した工学技術を説明できる							○										
目標5		電気の応用技術や新しい技術を調べて説明できるようになる							○				○						
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		ガイダンス：授業の進め方と講義内容の説明、電気の見えと歴史																	
2		電子の正体																	
3		個体中の電気伝導																	
4		導体とその応用																	
5		超伝導とその応用																	
6		半導体の基礎																	
7		半導体の応用																	
8		誘電体とその応用																	
9		磁性体の基礎																	
10		磁性体の応用																	
11		電磁誘導とその応用																	
12		電磁波とその応用																	
13		電気回路の基礎																	
14		電気機器の基礎																	
15		電気機器の応用、講義のまとめ																	
ラーニング目標		A:知識の定着・確認					○	毎回、講義内容の理解を深めるため、課題を与える。					工夫その他の	映像資料により、理解を深める。					
		B:意見の表現・交換						中間課題を与え、調査し報告させる。											
		C:応用志向					○	講義中、質問することにより理解を深めさせる。											
		D:知識の活用・創造					○												
時間外学習の内容と時間の目安		準備	配布資料を予習する(15h)。																
		事後	講義の内容を整理し、理解を深める(15h)。課題の解答例や配布資料を用いて復習する(10h)。																
教科書		教科書は用いない。 講義資料を配布する。																	
参考書		講義の中で必要があれば、参考書等を紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	講義毎の課題					20%	○	○	○	○	○								
	中間課題					20%					○	○							
	最終課題					60%	○	○	○	○									
注意事項		新型コロナの影響によっては、オンライン講義となる場合がある。																	
備考		理工学部理工学科履修不可 理工学部創生工学科電気電子コース及び工学部電気電子工学科は履修不可																	
リンク																			
		URL																	

ナンバリング AA45N122			授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】 / (分野)		授業形式												
			くらしの化学(Chemistry in Daily Life)				全学共通科目 自然・科学		対面												
			*大分を創る科目																		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択		2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期		氏名 氏家 誠司（内線 7903），衣本 太郎（内線 7905）（理工） E-mail seujiie@oita-u.ac.jp（氏家），kinumoto@oita-u.ac.jp（衣本） 内線														
授業の概要		身の回りで利用されている化学物質・材料および化学製品について理解するとともに、その機能および性能について学ぶ。具体的には、界面活性剤，プラスチック，ゴム，繊維，染料，化粧品，セラミックス，生体材料および光学材料などについて身近な製品や実験などを通して理解を深める。さらに暮らしに密接する重要な危害物質として、放射性物質をとりあげ、その発見と関連する放射線の概念、種類、特性、単位を理解し、その人体に及ぼす影響と安全利用について理解を深めるとともに、将来のエネルギー構想について概観する。以上により、日々の暮らしの中に如何に「化学」が関係しているかを理解する。																			
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1		身近な化学材料や化学製品を説明できる。										○									
目標2		身近な化学材料や化学製品の特長，役割および問題点を理解できる。										○	○	○	○	○					
目標3		身近な化学材料や化学製品の未来について考え，議論できる。										○	○	○	○	○					
目標4		日常生活環境に潜在する様々な放射性物質由来の「放射線」について理解できる。										○	○			○					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1		くらしにおける化学のかかわり																			
2		身の回りにある化学製品の概要																			
3		石油化学工業と製品の概要																			
4		化学物質・材料と製品の概要																			
5		染料の特徴と応用範囲																			
6		プラスチック製品の特徴と応用範囲																			
7		繊維製品の特長と応用範囲																			
8		界面の科学と応用製品(石鹸，洗剤，化粧品)																			
9		放射性物質と原子力発電																			
10		次世代エネルギーと電池の化学																			
11		無機物・炭素材料について																			
12		くらしに関連する金属																			
13		くらしに関連するセラミックス																			
14		大気環境の化学																			
15		水に関する化学と講義のまとめ																			
ラーニング目標		A:知識の定着・確認		○		講義の内容に合わせて下記のいずれかをそれぞれの回で行う。						工夫 その他の		身近にあり、人の営みの中で必要であり、重要なものであるが，その扱い方には注意が必要であることを理解し，日ごろから意識できるようにする。							
		B:意見の表現・交換		○		1. その回のテーマに対する自分の考えを書いてもらう。															
		C:応用志向				2. 講義を聴いて理解していなければ解けない問題に取り組んでもらう。															
		D:知識の活用・創造		○																	
時間外学習の内容と時間の目安		準備学習		日常的に利用している化学製品やエネルギーに関する現状や課題を調べ，学習しておく（10 h）。																	
		事後学習		授業中に得た知識や意見交換で得た情報をもとに自分の考えをまとめレポートにまとめる（10 h）。																	
教科書		必要に応じて資料を配布する。																			
参考書		授業中に適宜紹介する。																			
成績評価の方法及び評価割合		評価方法				割合		目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
		意見交換				30%		○		○	○										
		小テスト				20%				○											
		アイディア創出				20%				○	○										
		最終課題				30%					○	○									
評価については，対面かmoodleのどちらかで行う。																					
注意事項		理工学部応用化学コース，工学部応用化学科の学生は受講不可。																			
備考		演習実験等を行うため受講可能な人数は60名程度。教員以外の実務経験者（工芸専門家など）が講義・指導に参加する。																			
リンク																					
		URL																			

教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の実務経験者	天然素材の工芸専門家
実務経験をいかした教育内容	【工芸専門家】 県産品である竹を中心に科学にもとづいた造形について概説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式									
AA42G211		インストラクショナルデザイン入門(Instructional Design Fundamentals)					全学共通科目 福祉・地域		対面									
		*大分を創る科目																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期		氏名 鈴木 雄清 (IR・教マ)											
							E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069											
授業の概要		企業や医療現場における教育、高等教育などで幅広く用いられているインストラクショナルデザインの基礎を、実際の教材作成体験を通じて学ぶ。独学教材の設計、作成、改善を通じて、教育を効果的に、効率よく、魅力的にする方法を実現できるようになることをめざす。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 明確な目標の設定やテストの作成、教授方略を用いた教材の設計ができる。											○							
目標2 インストラクショナルデザインの基礎に従って、独学を支援するための教材を作成できる。											○							
目標3 形成的評価を実施し、よりよい教材にするために改善策を提案できる。											○							
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 【ブロック1】オリエンテーション、独学を支援する教材																		
2 教材をイメージする、教材作りをイメージする																		
3 教材の責任範囲を明らかにする、テストを作成する																		
4 教材企画書（初版）の作成																		
5 教材企画書の相互評価																		
6 教材企画書（改訂第2版）の作成 [課題1]																		
7 【ブロック2】相互評価・改訂版の作成																		
8 教材パッケージを作成する																		
9 教材企画書（改訂第3版）の作成																		
10 教材パッケージの作成																		
11 【ブロック3】形成的評価を実施する、教材を改善する																		
12 教材パッケージの相互評価																		
13 教材パッケージの改訂版作成 [課題2]																		
14 形成的評価の実施																		
15 総まとめと最終課題 [課題3]																		
ラック ニ テ イ グ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		☐ ☐ ☐ ☐		小テスト、フォーラムでの相互コメント、現実的な課題に基づく学習成果物の作成、成果物の相互レビュー、チェックリスト・ループリックによる自己評価		工夫 その 他の		LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施								
時間外学修 の内容と時 間の目安		準備 学修 事後 学修		教科書を必要に応じて読む(5h)。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(35h)。小テストや教科書・参考文献を用いて復習する(2h)。形成的評価を実施する(3h)。														
教科書		鈴木克明 『教材設計マニュアル―独学を支援するために』 北大路書房、2002年、ISBN9784762822445 [2,200円+税]																
参考書		R.M.ガニェ・W.W.ウェイジャー・K.C.グラス・J.M.ケラー（著）、鈴木克明・岩崎信（監訳）『インストラクショナルデザインの原理』 北大路書房、2007年、ISBN9784762825736																
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法					割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10		
	小テスト・フォーラム投稿課題					20%	○	○	○									
	教材企画書 [課題1]					20%	○											
	教材パッケージ [課題2]					40%		○										
	最終課題 [課題3]					20%			○									
すべての小テストおよびすべての課題の合格を単位取得の条件とする。																		
注意事項																		
備考																		
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】 / (分野)		授業形式									
AA44S223		日本のマネジメント(Management in Japan)				全学共通科目 社会・経済		オンライン (オンデマ ンド型)									
		*大分を創る科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・ 理工・福	後期		氏名 加納拡和 (経)											
						E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709											
授業の概要	本授業では、日本の企業システムの特徴並びに日本企業が抱える今日的な課題とそれらに対する取り組みを学習する。具体的に、日本の企業システムの特徴を概観した上で、日本企業が抱える諸問題としてイノベーション、ダイバーシティ、グローバル経営、コーポレート・ガバナンス、アントレプレナーシップ等のトピックに焦点を当てる。本授業は、上記の課題に対して経営学の諸理論を応用し、客観的、多角的に理解を深めていく。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	日本の企業システムの特徴を理解し、説明できるようになること							○	○								
目標2	日本企業が現在直面する課題とそれらに対する取組みを理論的に分析できるようになること							○	○								
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1		ガイダンス															
2		経営学の前提知識															
3		日本の企業システム (1)															
4		日本の企業システム (2)															
5		日本企業の課題と取組み：イノベーション (1)															
6		日本企業の課題と取組み：イノベーション (2)															
7		日本企業の課題と取組み：ダイバーシティ (1)															
8		日本企業の課題と取組み：ダイバーシティ (2)															
9		日本企業の課題と取組み：グローバル経営 (1)															
10		日本企業の課題と取組み：グローバル経営 (2)															
11		日本企業の課題と取組み：コーポレート・ガバナンス (1)															
12		日本企業の課題と取組み：コーポレート・ガバナンス (2)															
13		日本企業の課題と取組み：アントレプレナーシップ (1)															
14		日本企業の課題と取組み：アントレプレナーシップ (2)															
15		本授業のまとめ															
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	受講者が授業の要約と質問事項、感想をミニッツペーパーに記入し、次回授業の冒頭で担当教員が質問に対する回答と補足説明を行う。										工夫 その他 の				
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配布資料で紹介する予習用の文献を必要に応じて予習する (15h)。															
	事後学修	配布資料、配布資料で紹介する復習用の文献を必要に応じて復習する (15h)。レポート課題に取り組む (10h)。															
教科書	教科書は指定しない。以下の参考書を基に作成した講義レジュメを各授業で作成・配布する。																
参考書	・入山章栄 (2019) 『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社 ・その他の参考書は授業中に適宜指定する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	ミニッツペーパー		60%	○	○												
	課題レポート (3千字程度)		40%	○	○												
注意事項	本科目はオンデマンド形式で開講します。しかし、厳密に成績評価を行います。単に「オンデマンド形式だから」という理由での受講は控えてください。																
備考																	
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	ITコンサルタント
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	経営コンサルタント
実務経験を いかした教 育内容	・日本企業の事例や実態を適宜紹介することで理解の促進を図る。

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)				授業形式						
AA41G116			こことーくでキャリアを拓く(KokoTalk: Collaborative Career Development Seminar)				学全共通科目 導入・転換				対面						
			*大分を創る科目														
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択		2	1・2・3・4	教・経・福 ※理工・医は 注意事項を参 照	後期		氏名 宮町 良広 (経)										
							E-mail ymiya@oita-u.ac.jp (宮町) 内線 7684(宮町)										
授業の概要																	
こことーくとは、人のココロに灯をともし、ココでの話という意味です。こことーくの源流は、高校生向けのキャリア教育で全国的に注目されるNPO団体カタリバ(本部東京)にあります。2001年の設立以降、全国の約1300校、約22万人の高校生に対しキャリア学習プログラム「カタリ場」を行っており、活動の主な担い手は大学生です。本授業では、NPO及び九州キャリア教育研究会と連携し、こことーくという名前で大分大学版カタリ場を実施します。受講生は教室で十分な学習を行い、スタッフとして高校訪問します。高校の教育現場に飛び込むことで、自分自身のキャリアを拓く力を養成します。【こんな方にお勧めです】 「高校生の時に進路についてもっと考えておきたかった」 「大学でやりたいことが見つからない」 「深い話が出来る友達がいらない」 「自分に自信がない。そんな自分を変えたい」 「就活をやりぬく力を身につけたい」																	
具体的な到達目標																	
DP等の対応(別表参照)																	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10																	
目標1 自らの高校時代の体験を振り返り、それを高校生との対話に活かすコミュニケーションができる。																	
目標2 こことーくのスタッフと協力して、高校訪問の企画・準備・運営やプレゼンテーションができる。																	
目標3 自分の進路体験を内省し、将来のキャリアを主体的に開拓できる基礎力を身につけている。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 イントロダクション																	
2 こことーくのスタッフになるための学習・研修																	
3 こことーくのスタッフになるための学習・研修																	
4 こことーくのスタッフになるための学習・研修																	
5 こことーくのスタッフになるための学習・研修																	
6 こことーく前日研修																	
7 高校での第1回こことーく実施 (2回分をまとめて土曜日などに実施, 大学バス等で移動)																	
8 高校での第1回こことーく実施 (2回分をまとめて土曜日などに実施, 大学バス等で移動)																	
9 振り返り、改善点の抽出																	
10 振り返り、改善点の抽出																	
11 こことーく前日研修																	
12 高校での第2回こことーく実施 (2回分をまとめて土曜日などに実施, 大学バス等で移動)																	
13 高校での第2回こことーく実施 (2回分をまとめて土曜日などに実施, 大学バス等で移動)																	
14 振り返り																	
15 自分のキャリア計画づくり																	
ラ		A:知識の定着・確認				こことーく、グループやペアでの対話ワーク、想定した複数の高校生の役割を演じるロールプレイ、質疑応答と全体共有、現地実習		工 夫 そ の 他 の		訪問高校の特性分析、企画立案、授業の準備・実施							
イ		B:意見の表現・交換		○													
ニ		C:応用志向		○													
テ		D:知識の活用・創造		○													
グ																	
時間外学修の内容と時間の目安		準備学修		「人生グラフ」の作成(2h)。「先輩の話」の作成(10h)。こことーく企画の作成(20h)。													
		事後学修		レポート作成(3h)。報告書作成(3h)。													
教科書		なし。その代わりに【過年度の受講生の声】「周りにあわせる性格だったが、この授業を受けて自分から行動できるようになった」「大学の授業で一番やる気が出た」「高校生と向き合うことで自分自身が成長した」「授業を通して卒業後の目標が明確になった」「学部や大学を超えてずっとつながりたい友だちができた」「大学での居場所ができた」「受講して後悔することは絶対ないと保証する」															
参考書		『「カタリバ」という授業』上阪 徹、英治出版、2010年、1,575円															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	課題作業への取組状況					30%	○	○									
	こことーくでの内容・態度					30%		○	○								
	レポート(2課題)					40%			○								
注意事項		理工・医学部学生の受講を歓迎します(希望者は担当教員に連絡して下さい)。履修希望者が定員(50名程度)を超えた場合は、事前説明会(7月に実施予定)の参加者を優先することがあります。こことーくは土曜日などに実施し、その分の通常授業を休講とする予定です。															
備考		「単位が出なくてもまたこの授業をとりたい」と言ってくれた、過年度の受講生(アソシ)が自主的に授業を応援してくれます。															
リンク		認定NPO法人カタリバ URL https://www.katariba.or.jp															

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	大分の地域ブランド創造体験（Regional Branding for Engaging in Oita）		
ナンバリングコード	A20803 B20317	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎(教育)科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 年 / 後期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A032751	クラス名	-
担当教員名	吉村 充功		
履修上の注意、履修条件	原則として、COC+で実施する大分を創る人材を育成する科目である「ジェネリックスキル養成1」「ジェネリックスキル養成2」「初年次地域キャリアデザインワークショップ」のいずれかを単位修得もしくは履修登録済みであることを履修条件とします。 1泊2日×2回の宿泊型で実施します(2月下旬～3月上旬頃に実施予定)。実習合宿地は、中津市の予定です。送迎バスを運行します。宿泊、食費は実費負担(最大で10,000円程度)です。必要なものについては、別途指示します。		
教科書	特になし		
参考文献及び指定図書	特になし		
関連科目	ジェネリックスキル養成1・2、初年次地域キャリアデザインワークショップ(COC+単位互換科目)		

○基本情報		
授業の目的	農山漁村や中山間地域における特産品の6次産業化※とそのブランド化は、持続可能で活力ある大分県を実現する上で不可欠です。本授業では、こうした問題を解決し「地方創生」できる人材を育成する足掛かりとして、地域ブランドを掘り起こすための力と企画力の育成を目的とします。	
授業の概要	本科目は、「大分を創る人材を育成する科目」として、大分県内の行政機関や企業から提示されたテーマに対して異校種、異なる学部学生から構成されるグループで、地域の関係者と共に、地域のデータやフィールド調査の情報などの事実を整理分析し、地域の魅力と地域が抱えている課題を指摘し、魅力を活かした課題解決方法を探るとともに、その解決のための方策を提案することをねらいとします。 本年度は、中津市役所、中津市歴史博物館(なかはく)と連携し、なかはくの誘客につながるブランド製品の提案、なかはくと日本遺産に認定された「やばけい遊覧」との連携強化、情報発信策等について考える予定です。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「プレゼンテーション」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】				
【知識・理解】				
【技能・表現・コミュニケーション】	①他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。		10点	20点
【思考・判断・創造】	②地域での活動を体験して情報収集・分析し、テーマに関する地域社会が直面する課題を明らかにすることができる。 ③地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発を提案することができる。		40点	30点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
①課題の指摘や提案等の資料及びプレゼン資料、②班での課題解決のための提案とその内容、③振り返りポートフォリオを評価します。なお、評価の基準(ルーブリック)は当日配布します。 中間レポート、最終発表を評価します。最終発表の評価は①指導する教員、②ステークホルダーが評価します。また、授業中のグループ討議等での発言や参加状況も評価します。なお、成績評価の基準(ルーブリック)は当日配布します。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他
・6次産業化・・・農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進することを指し、1次産業の1×2次産業の2×3次産業の3のかけ算の6を意味します。 ・県内の大学・短大・高専の履修学生が合同で合宿研修を行いますので、目的意識を持って、主体的に臨んでください。

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名 担当教員	大分の地域ブランド創造体験（Regional Branding for Engaging 吉村 充功	授業コード	A032751
学修内容				
1. 合宿1回目初日：授業の目標に向かってのテーマ設定と授業展開づくり ①授業のねらいや訪問の際の心構えについて説明 ②授業実施のためのグループづくり ③アンケート、自己チェックシート実施				
予習 復習			事前課題を課します。提出された課題の内容は、授業内で共有します。 約20時間	
2. 地域体験活動1－1 ①ステークホルダーからの導入講義				
予習 復習				
3. 地域体験活動1－2 ①連携先を訪問し、概要や状況等のヒアリング				
予習 復習				
4. ワークショップ①（初日振り返り） ①体験して得られた気づきをまとめる、2日目の導入 ②ブランド化するストーリーの必要性の説明				
予習 復習			当日の活動のふり返りをもとに翌日に向けた目標の整理を行って下さい。 約2時間	
5. 合宿1回目2日目：地域体験活動2－1 ①連携先を訪問し、概要や状況等のヒアリング				
予習 復習				
6. 地域体験活動2－2 ①連携先を訪問し、概要や状況等のヒアリング				
予習 復習				
7. ワークショップ②（2日目の振り返り） ①中津の魅力をまとめる ②ブランド化するストーリーの提案資料作成				
予習 復習				
8. 中間発表①、2回目に向けてのガイダンス ①模造紙にまとめて発表				
予習 復習			個人でブランド化を構想しレポートにまとめ、指定期日までに提出。次回授業内で講評、フィードバックします。 約20時間	

○授業計画	科 目 名 担当教員	大分の地域ブランド創造体験（Regional Branding for Engaging 吉村 充功	授業コード	A032751	
学修内容					
9. 合宿2回目初日:個人発表、統合プランの検討 ①1回目合宿のワークシートをグループ内で発表 ②総合プランを模造紙に整理					
予習 復習			2回目の合宿に向けた目標の整理を行って下さい。		約2時間
10. 中間発表② ①総合プランを発表して、ステークホルダー等からの評価を受ける ※不足情報を認識し、班毎に再訪問先を決定					
予習 復習					
11. 地域体験活動3 ①班毎に情報収集する					
予習 復習					
12. ブランド化の企画書作成① ①学生視点からブランド化の提案を検討してパワーポイントに整理する					
予習 復習			当日の活動のふり返りをもとに翌日に向けた目標の整理、プレゼン準備を行って下さい。		約2時間
13. 合宿2回目2日目:ブランド化の企画書作成② ※前日のつづき					
予習 復習					
14. 最終成果発表と講評 ①パワーポイントを使って班ごとにブランド化等の提案					
予習 復習					
15. 振り返り ①個人コメント発表 ②自己チェックシート					
予習 復習			活動のふり返りをもとに今後にどのように活かしていくかの目標整理を行って下さい。		約4時間
16.					
予習 復習					

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	コミュニケーション演習（Communication Seminar）		
ナンバリングコード	A10304 B10601	大分類／難易度 科目分野	教養基礎(教育)科目 / 基礎レベル
単位数	2	配当学年／開講期	1 年 / 後期
必修・選択区分	選択		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A029051	クラス名	-
担当教員名	高見 大介、杉浦 嘉雄		
履修上の注意、履修条件	第1回に重要なオリエンテーションがありますから、第1回から出席した人のみ受講を認めます。また、第15回は、最終論文を授業中に書いてもらいますから、必ず出席してください。演習のため、授業は講義形式よりも話し合いやグループ学習形式で進めていきます。したがって、話し合いやグループ活動への参加態度が積極的ではない場合には受講停止になることがあります。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	なし		
関連科目	心理学、人間力概論、文章表現基礎講座		

○基本情報		
授業の目的	本講義を通して、「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」の4つの力が結集した「人間力」を育成をベースに、社会貢献や地域の活性化・福祉に必要な実践的な知識・技術を習得します。特に、コミュニケーション能力の育成と人間を見るための視点の修得を目標とします。具体的には、コミュニケーション・スキル、協働、思いやり、自己探求、自己表現、問題解決などをグループでの話し合いや協同学習を通して考え、身につけます。 その結果、知らない人とでも話せるようになること、他者の話を傾聴できること、自己表現できること、他者とも協働しながら問題解決できるようになることを主としてめざします。また、こうした基礎的な力をもとに生きるための力を考えていきます。	
授業の概要	各回グループワークなどによる実習や話し合い・協同学習を中心として進めていきます。そこでは、コミュニケーションの基礎として、知らない人とでも話すように努力すること(ほとんど毎回グループ替えをします)、他者の話がしっかり聴けること、大人数の前でも恥ずかしがらずに自己表現できること、他者と協力して作業ができること、さらにそれらが円滑に進むように授業者の指示に応じられることを最重要視します。ときどき、ホームワーク(宿題)を提出させることがあります。成績は、出席(全15回中11回以上)、ホームワークの提出、コミュニケーションへの参加態度および毎回授業中の小論文および最終論文を中心に評価を行います。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	幅広く人間関係やコミュニケーションに関心をもって、積極的に行動している。		60点	
【知識・理解】	コミュニケーションの必要性や適切な人間関係の在り方を理解している。		10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	演習を通してコミュニケーション・スキルを身につけており、表現できる。		20点	
【思考・判断・創造】	どういう状況で、どのようなコミュニケーションが適切か思考・判断し、創造的に行動できる。		10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
毎回の小論文は、意味のある文章であって、かつ350字以上400字を採点基準とします。最高点4点×15回＝60点。フィードバックについては、必要に応じて授業中に全体的に行います。小論文と最終論文の論点・内容は、毎回の与えられた課題に応じて、授業中のコミュニケーションについて考察し、自分に引き寄せて問題解決をめざし、創造的に論じていれば、4点/1回(×15回＝60点)となります。そして、関心・意欲・態度、知識・理解、技能・表現・コミュニケーション、思考・判断・創造の観点から総合的に評価します。小論文については、次回以降の授業中に講評・解説により、フィードバックを行います。 最終論文(第15回)400字以上800字以内、意味のある文章であり、かつ題意に沿った記述であれば30点、発想やアイデアがユニークであったり、思慮深く優れていたりすれば10点加点の合計40点とします。

○その他
◆注意 履修人数確認とグループ分けのため、履修登録期限17:00までにユニバーサルパスポートで履修登録を済ませてください。人数が超過する場合は抽選により選考し、履修の可否を登録学生には通知します。
①演習ですから、基本的に対面授業となります。しかし、学生相互の健康と安全を考慮して、場合によっては人数制限(90名程度)もしくは部分的にオンラインで実施する可能性があります。 ②この授業では毎回異なった人とコミュニケーションをしたり、簡単なグループ作業をしたりします。したがって、人と協調してグループ作業などができない人・人前で発表ができない人・人の話を傾聴できない人や「初めて会った人とのコミュニケーションは嫌だ」という人には不向きな科目ですから、履修を考え直してください。ただし、人見知りやコミュニケーションの苦手意識を積極的に克服しようという人は大歓迎です。毎回メンバーをアトラダムに変えて、グループを編成します。そのため、グループづくりに支障をきたしますから、遅刻は数分でも厳禁で欠席扱いとします。 ③毎回、400字程度で小論文を書いてもらい、評価の対象とします。特に、第15回は、期末試験に相当する最終論文を授業中に書いてもらいますから、必ず出席してください。

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	コミュニケーション演習（Communication Seminar） 高見 大介、杉浦 嘉雄	授業コード	A029051
学修内容				
1. オリエンテーション 授業心得・諸注意・授業の進め方について説明します。事前アンケートと小論文の作成を行います。				
予習	「夏休みの思い出、春休みに挑戦したいこと」について考えてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
2. グループでの話し合い 夏休みの思い出、春休みに挑戦したいことについて・分かち合い、小論文				
予習	「家庭・家族、出身地の観光地・名物、得意な技術・スキルなど自慢できるものについて」考えてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
3. グループでの話し合い 自分の家庭・家族、出身地の観光地・名物、得意な技術・スキル、遊び・趣味など自慢できるものについて、分かち合い、小論文				
予習	「秋らしいもの」について考えてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
4. グループでの話し合い 秋探し・裏山小散策、分かち合い、小論文				
予習	コミュニケーションについて調べてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
5. グループワーク コミュニケーションとコンセンサス1、分かち合い、小論文 グループの意見を一致させ、合意に至るコンセンサス法を学び、これを活用して「これは何でしょう」クイズにグループで解答します。				
予習	自分の一番大切なものとその理由について考えてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
6. グループワーク コミュニケーションとコンセンサス2、分かち合い、小論文 コンセンサス法を活用して、価値観について話し合ってみます。				
予習	コミュニケーションについて考えてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
7. グループワーク 表情・ノンバーバルコミュニケーション、分かち合い、小論文 コンセンサス法を活用して、グループで合意した解決に至ります。				
予習	コミュニケーションについて考えてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）
8. グループワーク 音楽によるコミュニケーション、分かち合い、小論文 コンセンサス法を活用して、グループで合意した解決に至ります。				
予習	課題の映画について調べてきます。			（約2.0h）
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			（約2.0h）

○授業計画	科目名	コミュニケーション演習（Communication Seminar）	授業コード	A029051
	担当教員	高見 大介、杉浦 嘉雄		
学修内容				
9. グループ・エクササイズ 映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ1、分かち合い、小論文 映画を鑑賞した後、内容についてグループで話し合います。				
予習	課題の映画について調べてきます。			(約2.0h)
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			(約2.0h)
10. グループ・エクササイズ 映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ2、分かち合い、小論文 映画を鑑賞した後、内容についてグループで話し合います。				
予習	課題の映画について調べてきます。			(約2.0h)
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			(約2.0h)
11. グループ・エクササイズ 映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ3、分かち合い、小論文 映画を鑑賞した後、内容についてグループで話し合います。				
予習	「生きていくのに必要なもの」について考えてきます。			(約2.0h)
復習	「本日のコミュニケーションで気づいたこと」について考えます。			(約2.0h)
12. グループ学習 テーマを設定した話し合い「生きていくのに必要なもの」、発表、小論文 思考ツールであるマインドマップとKJ法を学ぶ。これらを活用してグループで問題解決に至ります。				
予習	「なぜコミュニケーションが必要なのか」について考えてきます。			(約2.0h)
復習	マインドマップやKJ法で、またコミュニケーションで難しかったこと、逆によかったことなどをまとめます。			(約2.0h)
13. グループ学習 前回作品鑑賞・検討、テーマを設定した話し合い「なぜコミュニケーションが必要なのか」、発表、小論文 マインドマップとKJ法活用してグループで問題解決に至ります。				
予習	「うまくコミュニケーションをするにはどうしたよいか」について考えてきます。			(約2.0h)
復習	今日のコミュニケーションでうまくいったこと、逆に難しかったことをまとめます。			(約2.0h)
14. グループ学習 前回作品鑑賞・検討、テーマを設定した話し合い「うまくコミュニケーションをするにはどうしたよいか」→各グループで マニュアル作り」、発表、小論文 マインドマップとKJ法を活用してグループで問題解決に至ります。				
予習	最終論文に備えてワークシートを整理します。			(約2.0h)
復習	今日、コミュニケーションにおいてうまく実行できたことをまとめます。			(約2.0h)
15. 最終論文 前回作品鑑賞・検討 前回までの授業を振り返り、最終論文を作成します。				
予習	ありません。			(約2.0h)
復習	ありません。			(約2.0h)
16. 期末試験 ありません。				
予習	ありません。			(約2.0h)
復習	ありません。			(約2.0h)

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	森里海連環学と地球的課題（The earth system and linkage of forest、human and coastal ecosy		
ナンバリングコード	A20402 B20405	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎(教育)科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 年 / 後期
必修・選択区分	選択		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A031251	クラス名	-
担当教員名	池畑 義人、中西 章敦		
履修上の注意、 履修条件	教養基礎科目の科目連関表を確認して履修に臨むこと。 建築学科で環境・地域創生コースに進むものは履修を推奨する。 地域づくり副専攻の科目なので、当該副専攻登録者は履修の上で単位修得を目指すこと。 私語や授業中の飲食などで他の受講生や講師に迷惑をかけないようにすること。 遅刻限度は講義開始から15分とする。		
教科書	特に指定しない		
参考文献及び指定図書	田中克：森里海連環学への道，旬報社，2008 山下洋監修，京都大学フィールド科学 教育研究センター編：森里海連環学：森から海までの統合 的環境を目指して，京都大学学術出版会，2011		
関連科目	大分学・大分楽		

○基本情報		
授業の目的	現在の地球は地球温暖化や生物多様性の喪失など多くの課題を抱えている。この問題の解決のためには、省エネルギー化や二酸化炭素の排出抑制などの技術的手法だけでなく、SDGsの推進など社会的な手法からの解決も求められている。この講義では教養基礎科目として、社会人として必要な地球環境に関する知識の修得を目指している。そのために、大学全体のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに沿って、自然に対する幅広い視点を持つ能力、地球環境問題の解決に向けた多角的かつ柔軟な思考力を身につけることを目的としている。	
	わが国には、里山・里海という、人間と自然が共生する生活があった。しかし高度成長期の時代には里山や里海のことは忘れ去られ、自然の荒廃が進んだ。その後、自然環境の修復・再生に関する技術開発に多くの人材と費用が費やされました。その技術は一定の成果を生み出したが、自然の時空間的なつながりは考慮されてこなかった。私たちは、その修復過程において持続可能な生活環境の維持は、その源である川と山（森と里）の環境のつながり（連環）を修復しないと再生しないことを学んできた。そうした反省を踏まえて山と川と海のつながりを重視する森里海連環学という新しい学問が産まれた。この講義では、全地球的な視点から環境問題をとらえ、そのなかで森と里と海がどのようにつながっているかを理解することで、各受講生それぞれが専門科目を受講する中で環境問題を考えるための材料を提供する。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	担当者の中西章敦准教授は大分県土木建築部における業務で、生態系に考慮した河川改修事業に取り組んできた。中西准教授は実務経験から、河川や海洋における自然と人間の共生に関する内容を講義する。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	自然と人間生活の関わりについて理解するために意欲的に学習に取り組むことができる。その成果として毎回の講義で出題される課題を提出できる。	10点	20点	
【知識・理解】	地球の成り立ちと現状、および里海・里山の成り立ちを理解し、自然環境を理解するための基礎的なことを理解している。その成果として、レポートと中間テストで適切な解答ができる。	20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	グローバルとローカルの両面から自然環境の問題を認識でき、それをレポートにおける適切な様式で表現できる。	5点	5点	
【思考・判断・創造】	自分たちの生活が自然環境に対してどのようなインパクトを与えているのか判断することができる。その結果をレポートと中間テストで適切に表現できる。	20点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
S評価：グローバルとローカルな視点の両面から自然環境を俯瞰して見ることができ、地球環境の課題解決に対して独自の優れた提案ができる。また、その証明として総合的な評価において90%の点数を獲得している。 A評価：グローバルとローカルな視点の両面から自然環境を俯瞰して見ることができ、地球環境の課題解決に対して独自の提案ができる。また、その証明として総合的な評価において80%の点数を獲得している。 B評価：グローバルとローカルな視点の両面から自然環境を俯瞰して見るができる。また、その証明として総合的な評価において70%の点数を獲得している。 C評価：グローバルまたはローカルな視点のどちらか一方から自然環境を見るができる。また、その証明として総合的な評価において60%の点数を獲得している。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います	

○その他	
○毎回の講義の課題による評価 講義の最後に、毎回、レポート課題(合計3点×14回)を出します。各レポート課題の評価基準は、以下のとおり 〔3点〕 レポート課題の題意に対し十分な考察がなされ、要求された書式を満たしている。 〔2点〕 レポート課題の題意に対し十分な考察がなされていないが、要求された書式を満たしてる。 〔1点〕 要求された書式を満たしていない。 ○最終回の講義に出題されるレポートの評価 15回目の講義で全ての講義を総括した上で、レポート課題を出題します。このレポートの評価基準は以下のとおり 〔30点〕 レポート課題の題意を理解し、十分な考察がなされている。 〔25点〕 レポート課題の題意を理解し、考察がなされている。 〔20点〕 レポート課題の題意を理解している。 〔15点〕 レポート課題で要求された分量を満たしている。 ○8回目の講義で28点分の中間試験を実施する。 ○この科目は、地域づくり副専攻の構成科目である。 ○この講義ではTAを配置する予定である。 ○授業内容のキーワード：地球温暖化、生物多様性、森里海連環学、SDGs、里山、里海、世界農業遺産	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	森里海連環学と地球的課題（The earth system and linkage o 池畑 義人、中西 章敦	授業コード	A031251
学修内容					
1. 森里海連環学とは？ 前半は本講義における諸注意や評価の方法について解説する。 後半は森里海連環学の成り立ちについて説明する。					
予習		シラバスを熟読する			約2時間
復習		森里海連環学に関して出題された課題について解答してくる			約2時間
2. 地球環境問題の現状と課題 地球温暖化と二酸化炭素の問題、水質汚染、大気汚染、窒素循環など地球環境において発生している問題について解説し、その問題の解決について議論する。					
予習		前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習		今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
3. 地球の成り立ち 地球の成り立ちについて地球科学、惑星科学の側面から解説を行う。					
予習		前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習		今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
4. 地球の水循環(1) 地球上の水は大気圏と海洋圏において、それぞれの相互作用を行いながら循環している。この講義では地球規模の大気と海洋の循環について解説する。					
予習		前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習		今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
5. 地球の水循環(2) 私たちの生活のスケールでも水循環は行われている。私たちが使う水がどのように浄化され、使った水がどのように処理されている火を学ぶことで、生活スケールの水循環について学ぶ。					
予習		前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習		今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
6. 生態系の基礎知識 私たちは、多種多様な生き物に囲まれて暮らしている。そして、私たち自身も、この生き物のなかの一つの種といえる。このような、私たちを取り巻く生き物の様子を学ぶ。					
予習		前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習		今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
7. SDGsの成り立ちと意味 自然環境の問題を解決するためには政治的な取り決めや規制を欠かすことができない。国連では持続可能な開発目標（SDGs）を制定して、地球環境の改善策を練っている。このような国際的な取り組みについて解説する。					
予習		前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習		今回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
8. 中間試験 今後の講義の内容が理解できる水準に達しているのかを多肢選択式および記述式の試験で確認します。					
予習		中間試験に向けた、これまでの学修内容の復習			約2時間
復習		今回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	森里海連環学と地球的課題（The earth system and linkage o 池畑 義人、中西 章敦	授業コード	A031251
学修内容				
9. 里山と里海				
里山・里海は日本人が考え出した自然と共生する持続可能なシステムであり、世界中から注目されつつある。この講義では里山・里海の成り立ちについて解説するとともに、その維持・保全について考える。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
10. エネルギーの現状と課題				
東日本大震災以降、再生可能エネルギーへの期待が高まる一方で、二酸化炭素やメタンなどの地球温暖化を促進するガスの排出量は増大している。この問題を理解するために国内外のエネルギー生産、消費の現状について解説する。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
11. これからの自然エネルギーについて				
この講義では、大分県で産出する地熱エネルギーや風力などの自然エネルギーについて、その仕組みと展望について解説する。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
12. 里山と里海を護るために～実践的な活動～				
大分県では里山や里海をまもるために、多くの活動が実践されている。この講義では、大分県における里山・里海保全の現状について事例を交えて紹介する。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
13. 森林をどうやって活かすか～国東地区における世界農業遺産に関する取り組みを通じて～				
大分県国東地区は豊かな森林資源と、その森林と密接に関わる文化が維持されていることが評価され、世界農業遺産に指定された。この講義では、国東地区の森林資源を背景とした様々な文化を紹介する。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
14. 森里海連環学の現在と未来				
森里海連環学を提唱し、最前線で活動されている方にお越しいただき、これまで活動とこれからの展開について解説する。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
15. 講義の総括				
これまでの講義を振り返り、クリッカーやリアクションペーパー等で受講生との意見交換を実施する。最後に最終課題について内容を説明する。				
予習	前回の講義で指定した演習問題を解答する			約2時間
復習	出題された課題について解答する			約2時間
16. 期末試験				
なし				
予習				
復習				

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	起業学（Theory of Entrepreneuring）		
ナンバリングコード	A20206 B20309	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎(教育)科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 後期
必修・選択区分	選択		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A028352	クラス名	-
担当教員名	長崎 浩介		
履修上の注意、履修条件	すべての授業をオンライン(オンデマンド動画配信)方式で行います。教室は使用しません。動画、授業資料及び課題は、すべてGoogleクラスルームを通じて配信します。課題(レポート)の提出はオンラインで行い、課題の期限内提出をもって出席を認定します。		
教科書	指定しません。 レジュメ、スライドなどを使用します。		
参考文献及び指定図書	授業中に随時紹介します。		
関連科目	経営学分野、マーケティング・流通分野、会計ファイナンス分野各科目		

○基本情報		
授業の目的	「その他」欄(担当教員からのメッセージ)参照	
授業の概要	担当教員(長崎)が進行役となり、ゲストスピーカーが交替で登場する「オムニバス方式」で行います。 授業の進め方、課題提出の方法、成績評価の方法等については、第1回授業で説明します。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	地方自治体において税務、監査、農協検査、出納、中小企業支援等の事務に従事(長崎)	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	起業への関心を高め、起業についての意欲を持つ。		25点	
【知識・理解】	起業の歴史、実際のベンチャー企業への理解を深めるとともに、起業に関する会計などの周辺知識を習得する。		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	課題(レポート)の記述を通して、論理的な表現能力を高める。		30点	
【思考・判断・創造】	起業に関する学びを通して、思考・判断・創造力を高める。		25点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
毎回の授業において課題レポートを課します。テーマに関する自分の思いを、自分の言葉で書いてください。 成績評価は、課題の提出状況及び記載内容により行います。 期末試験に代えて、第15回授業の課題レポートを期末レポートとして課します。 課題へのフィードバックは、次回以降の授業において行います。

○その他
【担当教員からのメッセージ】 今、起業が注目されています。 グローバル化やテクノロジーの進展など社会の変化が加速する現代にあって、起業は、新しい産業や就業の機会を創造するとともに、経済成長をもたらす大きな原動力でもあります。ですから、社会は今、新しいビジネスを創造して社会に変革をもたらす「起業家精神」を持つ人材を求めています。国や地方自治体も、さまざまなアプローチで起業を積極的に支援しています。 起業が注目されているもうひとつの理由は、我が国の高齢化です。「人生100年時代」という言葉は、決して中高年だけに向けたものではありません。若い皆さんこそ、長い人生をどう生きるのかを考えなければなりません。 これまでは、1つの組織(会社)に所属し続け、自分のキャリアのすべてをその中で実現することが当然と考えられてきました。しかし、人生が長くなる一方で、社会の変化やビジネスの入れ替わりが激しくなると、人生の中でたびたび大きな環境の変化を経験することになります。1つの組織に所属するだけでなく、多様な選択肢を用意しておく必要があるでしょう。起業は、その有力な選択肢となります。 この授業でお伝えしたいことは、学生の皆さん全員に起業してほしいということではありません。実際に起業するにせよ組織に属するにせよ、自分の人生を、起業家マインドをもって自律的にデザインしてほしいということです。 この授業に登場するのは、工学部と経営経済学部の実務家教員を中心とした教授陣、大分を拠点に全国で活躍する経営者、そして本学出身の若手起業家です。理論・実務・実践それぞれの立場から「起業」のマインドとノウハウにアプローチします。 【各回コンテンツ担当教員】(授業順、一部未定) 長崎 浩介(経営経済学科)、黒田 匡迪(工学部)、小久保 雄介(経営経済学科)、福島 学(情報メディア学科)、中川 稔彦(航空宇宙工学科)、山城 興介(経営経済学科)、衛藤 俊寿(経営経済学科)、橋本 堅次郎(学長)

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	起業学（Theory of Entrepreneurship）	授業コード	A028352
	担当教員	長崎 浩介		
学修内容				
1. 今、なぜ起業を学ぶのか【長崎】 今、起業が2つの意味で注目されています。ひとつは、新しいビジネスが国の経済活性化や地域の課題解決の切り札として期待されていること、もうひとつは、終身雇用を前提とするこれまでのライフプランが通用しなくなりつつあることです。今回はこれら2つの観点から、起業の意義、わが国における起業の実態と、ライフプランとしての起業について学びます。				
予習	今、起業が注目されている理由を考察しましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
2. マーケティングの基礎【担当未定】 ビジネスを始め、続けるには、顧客と向き合わなければなりません。今回は、顧客との向き合い方であるマーケティングの基礎を、起業の観点から学びます。マーケティングの重要なフレームワークであるSTP分析、4Pを中心に学びます。				
予習	マーケティングとは何か、どんな技法があるか調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
3. データサイエンス入門【黒田】 将来の事業シーズとして有力視されるデータサイエンス（例えば位置情報の活用）やビッグデータについて、入門的な内容を学びます。 3回目の授業では、データサイエンスやビッグデータとはどのようなものであるかを理解し、その重要性を認識し、身近な活用事例を知ることの3点を目標にしています。 ビジネスにおける具体的かつ実践的な活用方法については、13回目の授業で詳しく学びます。				
予習	データサイエンスとはどういうことを調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
4. 新商品・サービスの開発【小久保】 起業をする上で“売るもの”がないと商売になりません。商品（製品・サービス）を開発する際にしばしば経験、勘、度胸で行われ、売れない商品が作られ、販売しても売れず廃業といったケースがよく見られます。授業ではそのような問題が起きないように効率よくヒット商品を作る方法について考え方、方法を学習します。				
予習	（新）商品開発をキーワードに、どのような技法があるかを調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
5. 新商品・サービスの開発【小久保】 単純に“アイデアを作る”といっても何もないところから考えるのは非常に難しいものです。この授業では簡単に短時間に大量のアイデアを得る方法を実習形式で学習します。さらにアイデアの良い絞り込み方も学習します。				
予習	「発想法」「アイデアの出し方」などをキーワードに、どのような技法があるかを調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
6. ソーシャルビジネス・クラウドファンディング【長崎】 現代の企業に求められているものは、単なる利益の追求ではありません。今、単なる利益の追求ではない、社会問題を解決するためのビジネス（ソーシャルビジネス）を新たに立ち上げる動きが広がっています。一方で、新たな資金調達の仕組みであるクラウドファンディングの普及が進んでいます。今回は、起業に関する新たな動きであるソーシャルビジネスとクラウドファンディングについて学びます。				
予習	キーワード（ソーシャルビジネス、クラウドファンディング）について調べましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
7. 起業と資金調達【長崎】 起業にはまず事業資金（元手）が必要です。事業資金を調達する方法は、大きく分けて、自分で用意する方法（自己資金）と金融機関から借り入れる方法の2つがあります。創業間もない企業は信用力に乏しいので、ある程度の自己資金を用意した上で政府系金融機関や民間金融機関から融資を受けるのが一般的です。この回では、金融機関からの資金借入れの仕組みと方法について学びます。				
予習	企業の資金調達の方法にどのようなものがあるか、調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
8. 産学連携に期待が高まる（健康延伸のためのヘルスケア産業の発展）【福島】 ビジネスとは対価を得て社会に価値を提供することですから、そこにはどんな価値を提供できるか、すなわちシーズ（seeds: タネ）が必要です。大学で行われる研究の中には、ビジネスのシーズに転化しうる「タネ」が数多くあります。今回は、そのようなタネの中から、ヘルスケアビジネスにつながる「快眠」の研究を、長寿化・健康延伸・ストレス社会の観点から紹介します。				
予習	ヘルスケアビジネスについて調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)

○授業計画	科目名	起業学（Theory of Entrepreneuring）	授業コード	A028352
	担当教員	長崎 浩介		
学修内容				
9. 人類の夢・宇宙ビジネスの時代が来る【中川】				
ビジネスとは対価を得て社会に価値を提供することですから、そこにはどんな価値を提供できるか、すなわちシーズ（seeds:タネ）が必要です。大学で行われる研究の中には、ビジネスのシーズに転化しうる「タネ」が数多くあります。今回は、そのようなタネの中から、ヘルスケアビジネスにつながる「快眠」の研究を、長寿化・健康延伸・ストレス社会の観点から紹介します。				
予習	宇宙開発がビジネスとどうつながるのか、事例を調べながら考えてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
10. 人流ビッグデータの活用と新事業展開【山城】				
いわゆるビッグデータのうち、多数の人の位置情報データを統計処理したものを人流ビッグデータといい、商業を始めまちづくり、観光、防災など幅広い分野で活用されています。今回は、ビッグデータのビジネスへの活用事例として、人流ビッグデータに基づく消費者行動の変化に関する研究を紹介します。				
予習	人流ビッグデータとは何か、ビジネスにどのように生かされているかを調べましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
11. 大分のビジネスリーダー、学生に語る①【長崎】				
経営経済学部の専門科目「産学協働講座（経営分析の実際）」では、大分県内の会社経営者をゲストスピーカーとして招き、学生へご講義をいただいています。その講義の模様を動画配信します。ビジネスリーダーが持つビジョン、使命感、先見性など、変革の時代に生きるリーダー像を学んでください。 内容の詳細については、開講後お知らせします。				
予習	今回のテーマとなる企業の概要について各自確認しておきましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
12. 大分のビジネスリーダー、学生に語る②【長崎】				
経営経済学部の専門科目「産学協働講座（経営分析の実際）」では、大分県内の会社経営者をゲストスピーカーとして招き、学生へご講義をいただいています。その講義の模様を動画配信します。ビジネスリーダーが持つビジョン、使命感、先見性など、変革の時代に生きるリーダー像を学んでください。 内容の詳細については、開講後お知らせします。				
予習	今回のテーマとなる企業の概要について各自確認しておきましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
13. ビジネスに活かすデータサイエンス【衛藤】				
データサイエンスのビジネスへの具体的な活用について学びます。				
予習	データサイエンスのビジネスへの活用について調べてみましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
14. NBU出身若手起業家インタビュー①【橋本】				
本学卒業生である若手起業家に、橋本学長がインタビューします。内容の詳細については、開講後にお知らせします。				
予習	今回のテーマとなる企業の概要について各自確認しておきましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
15. NBU出身若手起業家インタビュー②【橋本】				
本学卒業生である若手起業家に、橋本学長がインタビューします。内容の詳細については、開講後にお知らせします。				
予習	今回のテーマとなる企業の概要について各自確認しておきましょう。			(約2.0h)
復習	講義を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、今後生かしたいことなどを課題にまとめましょう。			(約2.0h)
16. 期末試験				
期末試験に代えて、第15回授業の課題レポートを期末レポートとして課します。実施方法は第15回授業で告知します。				
予習				
復習				

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	まちづくりマーケティング（Study of Town Management）		
ナンバリングコード	E21402	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 地域マネジメント
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 後期
必修・選択区分	コース必修: 地域マネジメントコース 選択: Bソリューションコース、会計ファイナンスコース、スポーツビジネスコース、こども・福祉コース コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E046251	クラス名	-
担当教員名	今西 衛		
履修上の注意、履修条件	地域マネジメントコースの学生は必修科目になっています。 この講義は、知識の習得ではなく、課題に対して創造的な発想による解決策を考えます。学ぶのではなく、解決するという姿勢で臨み、固定観念のとらわれず、自由な発想で参加してください。講義ノートは事前に配布するので、予習復習を行って下さい。レポートは採点後返却します。		
教科書	教科書はありません。必要に応じて参考図書、資料を提示します。 講義資料、レポートなどは、ウェブ上で公開しています。 https://www.nbu.ac.jp/~imanishimm/ 「今西 NBU」で検索して下さい。 榎並 利博「地域イノベーション成功の本質」、第一法規、2013		
参考文献及び指定図書	寺谷 篤志 ほか「地方創生」から「地域経営」へ」、仕事と暮らしの研究所、2015 他 備考欄参照		
関連科目	地域マネジメントコース必修科目、演習科目、統計に関する科目、プログラミングに関する科目、観光に関する科目、地域経営に関する科目、詳細は備考欄を参照してください。		

○基本情報		
授業の目的	本講義では、社会調査法の内容をベースとして、地域の課題を客観的に発見し、持続可能なまちづくり(SDGs)、定量データ、定性データを分析できる能力、および、事業を客観的に評価する能力(データサイエンス)を習得することです。これは、カリキュラム・ポリシーにある「世の中の変化」を社会調査法を通して、理論と実践を効果的に組み合わせるカリキュラムの一つです。 本科目は、身近な地域での問題から、まだ見ぬ解決方法を解決す方策を学びます。シナリオ作成から分析手法までをイメージした調査の基礎を学ぶとともに、まちづくりマーケティングのモデル構築を紹介します。さらに、これらからの時代、AIにできない、創造力、マネジメント能力を身につけてもらいます。	
授業の概要	本科目では、これまで地域で行われてきた実際の施策をもとに、地域で行うまちづくりや観光都市・エリアとしての観光まちづくりにどのような観点が必要で、どのような施策が効果的かを専門家を交えて議論します。そこで得られた知見を、来年度のまちづくりマーケティング演習を通じて実践していくことを目指します。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	まちで起きている出来事を理解し、客観的に理解する力を身につけてもらいます。	10点	5点	5点
【知識・理解】	まちの活性化で必要なこと、マーケティングの知識を身につけてもらいます。	10点	15点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	調査を行える技能、レポート、プレゼンテーションの表現力を身につけてもらいます。	10点	5点	5点
【思考・判断・創造】	まちの活性化というプロでも難しい課題を、どのような切り口で考え、まちを経営するという視点からの政策提言などを身につけてもらいます。	10点	15点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
毎回の講義で課題が課されます。したがって、毎回出席していないと、課題も提出できませんので注意してください。 Sレベル: 積極的に参加し、イノベーションとなる解決策と、それを根拠づける説明がなされている。 Aレベル: 課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル: 課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル: 課題解決の提案がない 講義形式ではあるが、都度、習得に必要な質問したか、講義時間外に習得のための努力をしているかなど合計20点満点で評価する。 課題は採点ご返却すると同時に、集計ベースで講義の中で解説します。課題の内容を再確認してして、学習成果を上げてください。

○その他
参考図書 橋本 行史 編著、(2015)、『地方創生の理論と実践 -地域活性化システム論-』、創生社、ISBN-13: 978-4794431585 デービット・アトキンソン、(2014)、『イギリス人アナリスト国宝を守る』、講談社+α新書、ISBN-13: 978-4062728706 川原靖弘、斎藤参郎編著(2017)、『ソーシャルシティ』、放送大学教育振興会、ISBN-13:978-4595317187 大正大学地域構想研究所/日本青年会議所「地域再興会議」編著、(2018)、『別冊地域人 地方創生に役立つ!「地域データ分析」の教科書(地域創生のための総合情報)』、大正大学出版会 ISBN-13:978-4924297982 SAS Institute Japan株式会社、(2019)、『AI実用化のための実践ガイド～SAS Viyaではじめるアナリティクス・ライフサイクル入門～』、リックテレコム、ISBN-13:978-4865941821 Saburo Saito、Kosuke Yamashiro eds.、(2019)、Advances in Kaiyu Studies: From Shop-Around Movements Through Behavioral Marketing to Town Equity Research (New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives)、Springer、ISBN-13: 978-9811317385 倉田博史、(2017)、『大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる』、KADOKAWA、ISB-13: 978-4046020000
関連科目 地域マネジメントコース必修科目:まちづくりマーケティング、地域ブランド論、地域イノベーション論、 演習科目:フィールド・スタディIA、IB、II、III、まちづくりマーケティング演習、フィールド調査 講義科目:地域経営論、観光学入門、観光ビジネス論、データ解析A、経済統計A、B、システム分析論、プログラミング入門、プログラミング言語
授業計画 講義内容については、レポートの採点結果、習熟度に応じて内容を変更する場合があります。

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	まちづくりマーケティング(Study of Town Management) 今西 衛	授業コード	E046251
学修内容				
1. まちづくりマーケティングとは まちに経営の概念がないです。経営学をまちづくりに応用するとどうなるのか？その導入部分について考えます。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	まちづくりにマーケティングを取り入れるとはどのようなことか考えよう			約2時間
2. まちづくりとは まちづくりには、道路を作るといったハード面とイベントを行うソフト面の二つがあります。ここでは、まちづくりの考え方について学びます。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	ハード面とソフト面の違いについて理解してください。			約2時間
3. まちづくりのモデル化 まちを客観的に捉えるために、モデルを組み立てる必要があります。ハフモデルの改良版である、修正ハフモデルを用いて、まちづくりのモデルの設計について簡単に解説します。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	修正ハフモデルとは何か、計算式などを理解しておいてください。			約2時間
4. まちづくりメカニズム(1)商業施設が新しくできたらどうなるか 修正ハフモデルを用いて、商業施設が新しくできたときの経済効果について学びます。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	講義例を実際に計算してみてください。			約2時間
5. まちづくりメカニズム(2)既存店舗が増床したらどうなるか 修正ハフモデルを用いて、既存店舗が増床したときの経済効果について学びます。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	講義例を実際に計算してみてください。			約2時間
6. ハフモデルの課題 修正ハフモデルには、様々な課題があります。どのような課題があるか考えてください。				
予習	講義の内容を踏まえて、あらかじめ、どのような課題があるのか考えてください。			約2時間
復習	今回の講義を聴いた上で、あらためて、どのような課題があるのか考え、予習の時と比較してください。			約2時間
7. いま、まちに必要とされているものは何か 最新の調査結果を踏まえ、いままちになにが必要とされているのか議論します。積極的に意見交換してください。				
予習	事前に、まちに何が必要か列挙してください。			約2時間
復習	意見交換で自分の意見がどのように変化したか考えてください			約2時間
8. 集団の意思決定(1) まちづくりには、多くの関係者が関わります。しかし、話がまとまらないケースが多いです。このようなことを理論的な部分から検証します。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	合理的な消費者とはどんな消費者なのか？考えてみてください。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	まちづくりマーケティング(Study of Town Management) 今西 衛	授業コード	E046251
学修内容				
9. 集団の意思決定(2) 社会の意思決定の一つに投票の多数決があります。多数決がどのような効果をもたらすのか議論します。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	まちづくりにおいて多数決を行うと不都合な場合が生じるか考えてみよう。			約2時間
10. イベントで人をどのくらい呼び込めるか？ 地域活性化政策の一つに、イベントがある。しかし、本講義では、イベントは推奨していない。その根拠について、経済効果を交えて紹介する。なお、受講生は講義の内容をそのまま信じるのではなく、自分の考えを持って講義に臨んでください。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	受講した上で、まちづくりにイベントは有効かどうか検討してみてください。			約2時間
11. 資金調達の仕組み 少子高齢社会の我が国において、地域活性化の資金は限られている。資金を調達する仕組みとしてどのようなものがあるのか、海外の事例を交えて紹介する。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	紹介したそれぞれの資金調達の長所と短所をまとめてください。			約2時間
12. 魅力の発見 地域に住んでいる人ほど、地域の魅力に気付いていないことがあります。みなさんも、自己PRを作成するときに、友人に長所を聞くことがあると思います。まちも同じことが言えます。皆さんの視点でまちの魅力を探してください。				
予習	エリアを設定して、地域の魅力を探してください。			約2時間
復習	地域の魅力を他の人に伝えるにはどうしたらよいか考えてみてください。			約2時間
13. データの読み方 PDCAサイクルのチェック 第10回で、イベントの講義を行いました。イベントの効果検証では、何人訪れた、経済効果はいくらだったということは推計できます。しかし、仮説(Act)がないため、同じ内容のイベントを毎年実施していることもあります。PDCAをきちんと動かすにはどうしたらよいか、ある来場者データを用いて学びます。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	イベントでPDCAが働かない理由を考えてみよう			約2時間
14. 人数計測の方法 まちづくりのPDCAサイクルの一つにチェック機能があり、政策をチェックする指標に人数計測がある。人数計測の方法を最新の研究とともに学びます。最新の研究データを用いますので、事前の資料配付はありません。				
予習	人数計測にどのような方法があるのか調べておいてください。			約2時間
復習	ニュースで出てくる来場者数は正確なのか考えてみましょう。			約2時間
15. 商業施設出店、閉店がまちにもたらす影響 商業施設が出店したり閉店したりすることで、まちの雰囲気も変わります。第4-6回の講義を踏まえ、事例を交えて議論します。				
予習	1週間前までに配付資料をWebで公開するので、事前に読んでおいてください。			約2時間
復習	最近の動きをまちづくりマーケティングの観点から考察してみよう。			約2時間
16. 定期試験 これまでの内容について、記述式の試験を実施します。詳細は、掲示します。				
予習				
復習				

科目コード	2A2C01
科目名	九州学
担当教員名	上野淳也
科目区分	コア科目コア 1
対象学科	[23]文学部 史学・文化財学科
対象学年	1 年次
開講期間	後期
単位数	2

+++授業概要	九州学のねらいは、次のようなことである。現在、県域を越えて、九州というまとまりで世界、他地域にアピールすることが求められている。その内容は歴史や文化だけでは不十分である。それは「食べる・見る・聞く・嗅ぐ・触る」という五感を投入した総合学でなければならないと考える。この授業は学際科目として、本学の3学部、短大の教員、および九州学に共鳴する研究者によって、リレー授業方式で実施する。受講者には九州という地域から新しい見方を勉強してもらい、それぞれの視点から地域の未来を語る学生が育つことを目標とする。 別府大学で2015年1月に提唱した「九州学」は2015年9月から授業として実施され、今年度で第8回目の開講となる。第1回目は「観光アイランド九州」、2回目九州学は「がんばろう九州」、第3回目は「九州再発見、学のクロスロード九州」、第4回目は「辺境からの発信」、5回目は「九州を発光させる」6回目「大学創立70周年記念 原点から未来を考える」,7回目は「新たな発見、新たな旅立ち 誰ひとり取り残さない」、8回目「九州のSDGs とはなにか―持続可能な社会をさぐる」等をテーマに九州の魅力発見の旅に出ました。本年度は「世界とつながる九州」をテーマにします。九州は古来、日本の海外交流の窓口でした。また、現在は分断の時代です。「つなぐ」「つながる」ことが重要となっています。その歴史と現代的課題を踏まえ、九州がどのように世界とつながるかを考えてみます。																																																						
到達目標	<table><tr><th>No</th><th>到達目標</th><th>教養 ※教養科目</th><th>専門力 ※専門科目</th><th>汎用力 思考力</th><th>汎用力 実行力</th><th>汎用力 表現力</th><th>汎用力 情報力</th><th></th></tr><tr><td>到達目標1.</td><td>九州という場所の魅力を再発見し、九州をすばらしさを認識する</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標2.</td><td>九州の魅力を再認識し、ここで得た知識を伝えることができる。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標3.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標4.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標5.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	No	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力		到達目標1.	九州という場所の魅力を再発見し、九州をすばらしさを認識する	◎							到達目標2.	九州の魅力を再認識し、ここで得た知識を伝えることができる。					○			到達目標3.									到達目標4.									到達目標5.								
No	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力																																																
到達目標1.	九州という場所の魅力を再発見し、九州をすばらしさを認識する	◎																																																					
到達目標2.	九州の魅力を再認識し、ここで得た知識を伝えることができる。					○																																																	
到達目標3.																																																							
到達目標4.																																																							
到達目標5.																																																							
授業計画	<table><tr><th>No</th><th>授業内容</th><th>授業時間外の学修の内容と時間</th></tr><tr><td>1.</td><td>九州学とはなにか 世界につながる九州</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>2.</td><td>世界とつながった大航海時代―大砲の来た道</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく（1h）。授業後は必ず復習をする（1h）。</td></tr><tr><td>3.</td><td>食文化からみた大航海時代</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>4.</td><td>世界につながる大分車椅子マラソン―中村博士の思い―</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>5.</td><td>仏教がつなぐ東アジア世界―せん仏がきた道―</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>6.</td><td>中国銭でつながった東アジア世界</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>7.</td><td>経済でつながるアジア</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>8.</td><td>焼き物でつながる世界―セラミックアイランド九州―</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>9.</td><td>香りでつながる世界</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>10.</td><td>地球の歴史からみた九州</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項（1h）を本やインターネットで調べておく。授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>11.</td><td>シンポジウム 「フランスと別府大学の交流」 ギャラリーホール展示と連携</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>12.</td><td>シンポジウム 「フランスと別府大学の交流」 ギャラリーホール展示と連携</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>13.</td><td>世界をむすぶマンガ</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）</td></tr><tr><td>14.</td><td>音楽の架け橋「アルゲリッチ」音楽祭</td><td>シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。授業後は必ず復習をする。</td></tr><tr><td>15.</td><td>宇宙をつなぐ九州</td><td>これまでの総復習とレポートへの準備（2h）</td></tr></table>	No	授業内容	授業時間外の学修の内容と時間	1.	九州学とはなにか 世界につながる九州	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	2.	世界とつながった大航海時代―大砲の来た道	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく（1h）。授業後は必ず復習をする（1h）。	3.	食文化からみた大航海時代	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	4.	世界につながる大分車椅子マラソン―中村博士の思い―	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	5.	仏教がつなぐ東アジア世界―せん仏がきた道―	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	6.	中国銭でつながった東アジア世界	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	7.	経済でつながるアジア	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	8.	焼き物でつながる世界―セラミックアイランド九州―	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	9.	香りでつながる世界	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	10.	地球の歴史からみた九州	シラバスを読み、事前に関係の事項（1h）を本やインターネットで調べておく。授業後は必ず復習をする。（1h）	11.	シンポジウム 「フランスと別府大学の交流」 ギャラリーホール展示と連携	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	12.	シンポジウム 「フランスと別府大学の交流」 ギャラリーホール展示と連携	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	13.	世界をむすぶマンガ	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）	14.	音楽の架け橋「アルゲリッチ」音楽祭	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。授業後は必ず復習をする。	15.	宇宙をつなぐ九州	これまでの総復習とレポートへの準備（2h）						
No	授業内容	授業時間外の学修の内容と時間																																																					
1.	九州学とはなにか 世界につながる九州	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
2.	世界とつながった大航海時代―大砲の来た道	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく（1h）。授業後は必ず復習をする（1h）。																																																					
3.	食文化からみた大航海時代	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
4.	世界につながる大分車椅子マラソン―中村博士の思い―	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
5.	仏教がつなぐ東アジア世界―せん仏がきた道―	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
6.	中国銭でつながった東アジア世界	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
7.	経済でつながるアジア	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
8.	焼き物でつながる世界―セラミックアイランド九州―	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
9.	香りでつながる世界	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
10.	地球の歴史からみた九州	シラバスを読み、事前に関係の事項（1h）を本やインターネットで調べておく。授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
11.	シンポジウム 「フランスと別府大学の交流」 ギャラリーホール展示と連携	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
12.	シンポジウム 「フランスと別府大学の交流」 ギャラリーホール展示と連携	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
13.	世界をむすぶマンガ	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。（1h）授業後は必ず復習をする。（1h）																																																					
14.	音楽の架け橋「アルゲリッチ」音楽祭	シラバスを読み、事前に関係の事項を本やインターネットで調べておく。授業後は必ず復習をする。																																																					
15.	宇宙をつなぐ九州	これまでの総復習とレポートへの準備（2h）																																																					

履修条件や関連する科目等	温泉学概論。																																																
教科書 (テキスト)	随時印刷資料を渡す。																																																
参考書 (授業資料)																																																	
評価方法とその割合	<table><tr><td>到達目標毎 の評価方法</td><td>期末試験</td><td>小テスト</td><td>課題・レポート</td><td>発表</td><td>授業の取り組み姿勢</td><td>その他</td></tr><tr><td>到達目標1</td><td></td><td></td><td>40%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標2</td><td></td><td></td><td>40%</td><td></td><td>10%</td><td></td></tr><tr><td>到達目標3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							到達目標毎 の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他	到達目標1			40%		10%		到達目標2			40%		10%		到達目標3							到達目標4							到達目標5						
到達目標毎 の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他																																											
到達目標1			40%		10%																																												
到達目標2			40%		10%																																												
到達目標3																																																	
到達目標4																																																	
到達目標5																																																	
評価方法（自由記述欄）	学習状況を前提に、授業内容に関する課題を出し、これをレポートで提出させ、この内容で評価を行う。																																																
評価基準等	学習の到達度に応じて、AA(90 - 100点)、A (80-89点)、B (70-79点)、C (60-69点)、F (59点以下) で評価します。																																																
学習相談及び学習成果の フィードバック	授業ごとにミニッツペーパーを配布する。授業の質問や学習のフィードバックはこれを通じて行いたい。 オフィスアワーは月曜1限目と木曜4限目。																																																
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	特になし																																																
学生へのメッセージ その他	○外部からの講師が多い授業ですので、私語やスマホ操作など失礼がないように注意してください。 ○今年度は、大学72周年の年目です。強く「我々」の原点を意識し、新たに出発を考える年です。皆さんも大学を構成する重要なメンバーです。是非、この機会に大学の未来を考え、主体的行動してみてください。 ○講義に合わせて、先生の原画展を佐藤義詮記念館のギャラリーホールで実施します。 ○この授業は後期授業なので、9月には確定版をホームページに出します。																																																
ナンバリング	RES-0-03-700																																																
更新日付	2023/01/17 17:04:19																																																

科目コード	2A2201
科目名	温泉学概論
担当教員名	小野貴史
科目区分	コア科目コア 1
対象学科	[23]文学部 史学・文化財学科
対象学年	1 年次
開講期間	後期
単位数	2

+++授業概要	温泉文化は日本の自然と歴史に根ざした日本独自ものであるが、本格的な研究は十分ではない。そこで、別府大学では、世界最大の温泉保養地別府市にある大学として、総合温泉学の確立を目指すプロジェクトを開始している。 本講義は温泉に係わる研究を広く公開する場とする。学内外の多分野にわたる教員がさまざまな方面から温泉のもつ諸側面を明らかにしていく。 12回の授業の内容は温泉に関する文化、歴史、観光、食などを通して温泉に対する基本知識を学習して、「温泉大国」である日本を再認識できるようになる。また2回分は、学外温泉活動（別府八湯各地）を実施し、その活動報告の発表会を1回実施する。 講義は複数の教員がリレー方式で行う。ただし、順番と内容は教員の都合によって変更することがある。詳細は最初の講義で説明する。																																																													
到達目標	<table><tr><th>No</th><th>到達目標</th><th>教養 ※教養科目</th><th>専門力 ※専門科目</th><th>汎用力 思考力</th><th>汎用力 実行力</th><th>汎用力 表現力</th><th>汎用力 情報力</th><th></th></tr><tr><td>到達目標1.</td><td>日本の温泉文化を理解し、それを見直すことができる</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標2.</td><td>温泉の種類、温泉の効用、温泉の地熱利用の知識を取得できる</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標3.</td><td>温泉観光などの知識を取得できる</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>到達目標4.</td><td>外国の温泉地の状況を学習できる</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>到達目標5.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>								No	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力		到達目標1.	日本の温泉文化を理解し、それを見直すことができる								到達目標2.	温泉の種類、温泉の効用、温泉の地熱利用の知識を取得できる			○					到達目標3.	温泉観光などの知識を取得できる				○				到達目標4.	外国の温泉地の状況を学習できる						○		到達目標5.								
No	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力																																																							
到達目標1.	日本の温泉文化を理解し、それを見直すことができる																																																													
到達目標2.	温泉の種類、温泉の効用、温泉の地熱利用の知識を取得できる			○																																																										
到達目標3.	温泉観光などの知識を取得できる				○																																																									
到達目標4.	外国の温泉地の状況を学習できる						○																																																							
到達目標5.																																																														
授業計画	<table><tr><th>No</th><th>授業内容</th><th>授業時間外の学修の内容と時間</th></tr><tr><td>1.</td><td>温泉の入門編</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>2.</td><td>別府八湯について</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>3.</td><td>別府八湯ウォークのススメ</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>4.</td><td>別府八湯温泉道のススメ</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>5.</td><td>温泉と歴史</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>6.</td><td>温泉と文化</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>7.</td><td>温泉と観光</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>8.</td><td>温泉と健康</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>9.</td><td>温泉と食</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>10.</td><td>温泉と芸術</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>11.</td><td>温泉と景観</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>12.</td><td>温泉と自然エネルギー</td><td>教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）</td></tr><tr><td>13.</td><td>学外活動 別府八湯まちめぐり（別府八湯ウォーク、温泉道）</td><td>学外活動</td></tr><tr><td>14.</td><td>学外活動 別府八湯まちめぐり（別府八湯ウォーク、温泉道）</td><td>学外活動</td></tr><tr><td>15.</td><td>学生発表（学外活動）</td><td>学生発表</td></tr></table>								No	授業内容	授業時間外の学修の内容と時間	1.	温泉の入門編	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	2.	別府八湯について	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	3.	別府八湯ウォークのススメ	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	4.	別府八湯温泉道のススメ	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	5.	温泉と歴史	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	6.	温泉と文化	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	7.	温泉と観光	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	8.	温泉と健康	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	9.	温泉と食	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	10.	温泉と芸術	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	11.	温泉と景観	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	12.	温泉と自然エネルギー	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）	13.	学外活動 別府八湯まちめぐり（別府八湯ウォーク、温泉道）	学外活動	14.	学外活動 別府八湯まちめぐり（別府八湯ウォーク、温泉道）	学外活動	15.	学生発表（学外活動）	学生発表						
No	授業内容	授業時間外の学修の内容と時間																																																												
1.	温泉の入門編	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
2.	別府八湯について	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
3.	別府八湯ウォークのススメ	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
4.	別府八湯温泉道のススメ	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
5.	温泉と歴史	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
6.	温泉と文化	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
7.	温泉と観光	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
8.	温泉と健康	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
9.	温泉と食	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
10.	温泉と芸術	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
11.	温泉と景観	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
12.	温泉と自然エネルギー	教員が配ったプリント内容を復習する（1時間） 次回の内容を予習する（1時間）																																																												
13.	学外活動 別府八湯まちめぐり（別府八湯ウォーク、温泉道）	学外活動																																																												
14.	学外活動 別府八湯まちめぐり（別府八湯ウォーク、温泉道）	学外活動																																																												
15.	学生発表（学外活動）	学生発表																																																												

履修条件や関連する科目等	特になし						
教科書 (テキスト)	①『別府八湯 温泉本』 NPO 法人ハットウ・オンパク 2022～2023年版 660円 (税込) (別府八湯温泉道公式ガイドブック) ②プリントを授業において配布。						
参考書 (授業資料)	随時指示される。						
評価方法とその割合	到達目標毎 の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1			10%	10%	10%	
	到達目標2			10%	10%	10%	
	到達目標3			10%	10%	10%	
	到達目標4					10%	
	到達目標5						
評価方法 (自由記述欄)	①学外温泉活動 (別府八湯ウォーク、温泉道) を2回実施し、学外活動後にレポートの提出を求めます。 ②ミニツペーパーは学習成果の取得を測る目的で各回の授業後感想文を求めます。 ③学期末にレポート提出を求めます。 講義の内容を正確に理解できているか、また説明できるかについて評価します。						
評価基準等	学習の到達度に応じて、AA(90 - 100点)、A (80-89点)、B (70-79点)、C (60-69点)、F (59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果の フィードバック	【学習相談】 研究室での質問対応、メールでの対応を実施します。 研究室に来る際は、アポイントメントを取ることが望ましいです。 研究室等情報は以下の通りです。 ・24号館、小野研究室 (研究室番号 : 403) ・メールアドレス : oat-ono@nm.beppu-u.ac.jp						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	特になし						
学生へのメッセージ その他	授業での資料や学外活動を基に、レポートを作成すること。 できるだけ早く大学生として必要とされる学習スキルを身につけるとともに学問的関心を広げ深めること。						
ナンバリング	RES-0-01-700						
更新日付	2023/01/23 14:26:53						

科目コード		科目名	実務経験 のある教員 による授業	地域志向	単位	担当者	関連資格			
							生活	療法	樹木	フラワー
57 S K 22 HT		園芸療法Ⅱ	○	地域力	2	小石鉄兵〈実〉		○		
学習成果		学習成果 5) 応用的専門知識								
授業の概要		園芸療法の効果測定方とプログラムの実際について学ぶ。心身の障害者や高齢者に各症状に適した園芸作業を考える。最終回で各自考えたプログラムを発表してもらう。								
授業の形式		講義(アクティブラーニングを含む)								
到達目標と対応する学習成果		① 授業で取り扱った疾患や障害についての基礎的特徴を理解できる。					学習成果 5) 応用的専門知識			
		② 園芸療法の評価方法の選択できる。さらにクライアントに対する園芸療法プログラムを作成することができる。					学習成果 5) 応用的専門知識			
		③								
		④								
		⑤								
履修上の注意点／試験やレポート等に対するフィードバックの方法		⑥								
評価の方法と基準		学習成果 5) 100点 (内訳:グループワークでの課題発表20点分、プログラム発表(スライド作成・プレゼン)30点分、定期試験50点分) ※課題(発表スライドなど)の提出遅延に関しては、減点とする。								
教科書		適宜、プリントを配布する								
参考書		・「園芸リハビリテーション」 山根寛ほか著 医歯薬出版(図書館に蔵書あり)								
		・「園芸療法を探る」 松尾英輔著 グリーン情報(図書館に蔵書あり)								
授業計画	回	授業内容				アクティブラーニング	授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)			
	1	園芸療法士としての社会的役割				○	園芸療法士の役割について、自分の考えをまとめておく(予習30分)。受講後は、講義内容を振り返りを行う(復習1時間)。			
	2	園芸活動の捉え方 ～ヒトと植物の関係性について～				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	3	園芸活動時の危機管理					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	4	園芸療法の実際(医療分野 大分県的事例含む)				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	5	園芸療法の実際(介護分野 大分県的事例含む)					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	6	園芸療法の実際(就労支援分野 大分県的事例含む)					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	7	園芸療法の実際(小児分野 大分県的事例含む)					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	8	園芸療法時の作業分析①				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	9	園芸療法時の作業分析②				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	10	園芸活動における評価内容					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。 授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。			
	11	農福連携について①				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。ならびに最終発表に向けた準備に取り組むこと。			
	12	農福連携について②					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。ならびに最終発表に向けた準備に取り組むこと。			
	13	園芸療法的手段(アプローチ)について①				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。ならびに最終発表に向けた準備に取り組むこと。			
	14	園芸療法的手段(アプローチ)について②					予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。授業内容に応じ、要点を整理しておくこと。ならびに最終発表に向けた準備に取り組むこと。			
	15	園芸療法プログラム:プログラムの発表				○	予習30分以上、復習1時間以上取り組むこと。他者の発表内容を踏まえ、要点を整理した上で、園芸療法の役割をまとめること。			
	16									

2L1E210011		授業科目名 (英文名)		宗教学Ⅱ (Religious StudiesⅡ)		関係資格		幼稚園教諭二種免許状		
								保育士資格		
学年	1 年	学期	後期	卒業 必修・選択	選択	単位数	2	授業形態	講義	
担当教員名		緒方 義英			実務経験	有	高等学校教員（宗教） 浄土真宗本願寺派教師			
メールアドレス		ogata@higashikyusyu.ac.jp			オフィスアワー		月～木曜日 16:30～17:00			
【授業の概要】 本授業では、前半で親鸞思想のベースとなっている大乘仏教の思想について取り上げ、後半では親鸞聖人の生涯を辿りながら、その求道と思想について取り上げていく。授業は、担当教員の用意するプリントを中心に進めるが、適宜、DVD等の視聴覚教材を用いる。										
【授業の到達目標】 親鸞聖人の生涯と教えを通して、宗教的な価値観と世俗的な価値観を比較・検討し、人間の本当に拠り所とすべき「真実の教え」とは何かを問いながら、宗教の本質について考察する。 (1)仏教の本質を理解し、述べることができる。 (2)浄土真宗と他の仏教の違いについて説明することができる。 (3)真実の宗教を見極めることができる。										
【本科目と学修成果との関連】			知識・技能			思考力・判断力・表現力		態度・志向性		
Ⅰ：保育者基礎力										
Ⅱ：子ども・家庭支援力										
Ⅲ：保育実践力										
Ⅳ：社会人基礎力・社会貢献力			◎			○				
【アクティブラーニング】			知識の定着・確認		表現志向		応用志向		知識の活用・創造	
			—		—		—		—	
			<具体的な方法> —							
学修成果のフィードバック			小テスト、レポートは次回授業時に返却する。							
【成績評価の方法及び基準】			定期試験 (60%)	小テスト (30%)	課題・作品・ レポート (10%)	発 表 (%)	(%)		(%)	
学修成果Ⅰ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅱ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅲ	知識・技能									
	思考力・判断力・表現力									
	態度・志向性									
学修成果Ⅳ	知識・技能		○	○						
	思考力・判断力・表現力				○					
	態度・志向性									

実務経験をいかした教育内容		浄土真宗本願寺派教師の立場で日常的に法話をしており、その経験をいかして授業内容を工夫する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者		—
テキスト・参考図書・参考資料		〈テキスト〉担当教員が配布する教材、「真宗保育の基礎」（真宗保育学会）、「仏教聖典」、「さとの知恵を読む」（仏教伝道協会）
授業計画	授業項目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明、浄土真宗の教章について
第 2 回	仏教とは何か 1	仏教の本質について ～ 転迷開悟/智慧と慈悲 ～
第 3 回	仏教とは何か 2	仏教の根本教理 ～ 四法印と縁起 ～ （小テスト 1）
第 4 回	仏教とは何か 3	抜苦与楽の法① ～ 四諦八正道 1 ～ （小テスト 2）
第 5 回	仏教とは何か 4	抜苦与楽の法② ～ 四諦八正道 2 ～
第 6 回	仏教とは何か 5	抜苦与楽の法③ ～ 四諦八正道 3 ～ （小テスト 3）
第 7 回	親鸞聖人の生涯 1	誕生から出家まで
第 8 回	親鸞聖人の生涯 2	比叡山での修行 （小テスト 4）
第 9 回	親鸞聖人の生涯 3	吉水での生活
第 10 回	親鸞聖人の生涯 4	法難と流罪 （小テスト 5）
第 11 回	親鸞聖人の生涯 5	伝道と執筆活動 （小テスト 6）
第 12 回	親鸞聖人の生涯 6	DVD「親鸞聖人の見た風景」 レポート提出 （小テスト 7）
第 13 回	親鸞聖人の教え 1	専修念仏が意味するもの
第 14 回	親鸞聖人の教え 2	DVD「親鸞さま」 レポート提出 （小テスト 8）
第 15 回	まとめ	これまでの授業内容の振り返り
準備学修	授業計画に示す項目について、テキストの当該ページを一読しておく。（各回 1h）	
事後学修	授業計画に示す小テストに向け、配布プリントをまとめ、整理しておく。（各回 1h）	
注意事項	配布する教材プリント、返却する小テスト及びレポートはファイリングしておくこと。	
備考	—	

	
授業科目名「単位数」	
温泉コンシェルジュ応用　【２】	
担当教員名（授業形態）	
坂田　守史（単独）	
実務経歴	なし　資格、免許又は実務経験等
共同担当教員名	
受講対象	食留2
学科等	専門教育科目
履修法	講義
開講期	集中
学びの三要素	☒ 知識・技能 ☒ 主体性・意欲 ☒ 就業力・協働
アクティブラーニングの音楽	
☐ PBL（課題解決型学習）	☐ 反転授業
☒ プレゼンテーション、発表	☒ 実習、フィールドワーク
☒ ディスカッション、討論、ディベート	☒ グループワーク
☐ 実験、実技	
科目の到達目標	
①別府や近隣エリアの地域資源を組み合わせた滞在プログラムの提案ができる。 ②多様な情報を収集し、顧客の滞在価値を高めるツールを作成できる。 ③人的ネットワークを活用し、課題解決力を身につけることができる。 ④顧客や職場等の考えを理解し、課題解決の為に提案を行うことができる。	
授業の目的・概要	
「温泉コンシェルジュ修了証取得のための必修科目」 温泉コンシェルジュに求められるものは、総合的な案内を通して顧客のニーズに最大限に対応するための知識と資質・能力です。その資質能力を身につけた人材が各職場に存在することが求められます。本授業は、他の授業で学んだ様々な基礎的な知識を基にして、実習を通じて温泉コンシェルジュとしての技能を総合的に学び、資質・能力を身につけるものです。具体的には、特定のエリアまたは宿を素材にして当エリアの店舗関係者や地域住民との対話やフィールドワークを通じて、様々な目的を持った顧客に対して新しい過ごし方や楽しみ方を提案する企画力や創造力の習得を図ります。	
ディプロマポリシーとの関係	
幅広い教養と豊かな人間性を育む努力ができる授業 地域資源や温泉の魅力を組合せた地域独自のプログラムを提案できる授業	
授業計画	
1. プランワークの基礎を学ぶ・・・授業ガイダンス（授業の概要と授業計画を説明） 2. プランワークの基礎を学ぶ・・・プランを作成するうえでの基本的な考え方を、事例紹介などのレクチャー、ワークショップで学習する① 3. プランワークの基礎を学ぶ・・・プランを作成するうえでの基本的な考え方を、事例紹介などのレクチャー、ワークシートを用いながら学習する② 4. 対象エリアを知る・・・実際に現場に訪れてフィールドワーク（体験や現地調査、ヒアリングなど）を行う① 5. 対象エリアを知る・・・実際に現場に訪れてフィールドワーク（体験や現地調査、ヒアリングなど）を行う② 6. 対象エリアを知る・・・実際に現場に訪れてフィールドワーク（体験や現地調査、ヒアリングなど）を行う③ 7. 対象エリアを知る・・・実際に現場に訪れてフィールドワーク（体験や現地調査、ヒアリングなど）を行う④ 8. 対象エリアの新しいプラン（滞在型プラン）の創造・・・企画練習（プラン立案の方法のレクチャーとワークショップの実施）① 9. 対象エリアの新しいプラン（滞在型プラン）の創造・・・企画練習（プラン立案の方法のレクチャーとワークショップの実施）② 10. 対象エリアの新しいプラン（滞在型プラン）の創造・・・企画練習（プラン立案の方法のレクチャーとワークショップの実施）③ 11. 対象エリアの新しいプラン（滞在型プラン）の創造・・・企画練習（プラン立案の方法のレクチャーとワークショップの実施）④ 12. プラン磨き・・・考えたプランのターゲット、プランの金額などもふまえてブラッシュアップ 13. プレゼンテーション制作・・・プラン発表用のプレゼンテーションを作成① 14. プレゼンテーション制作・・・プラン発表用のプレゼンテーションを作成② 15. プランの発表 *実習先のエリアまたは宿は、別府市や近隣のエリアを想定しています。	
認定試験	実施しない
準備学習（予習・復習）	独自に現地を見学したり、資料を収集したりファイル化したりしなければなりません。その積み重ねが最終レポート作成に必要です。
評価方法	授業時の課題対応：ミニレポートや学習課題への対応：30% 専門性：フィールドワークやワークショップでの課題発見、解決、提案力：40% 責任感や積極性等の授業中の態度：30% 上記を総合的に評価。
基準	S:到達目標を十分に理解できる A:到達目標を理解できる B:到達目標を概ね理解できる C:到達目標を理解できるように努めている
テキスト	授業ごとに資料を配付します。最終的には、グループ演習での作品製作も行います。
オフィスアワー	授業時間の前後に教室で受け付けます
備考	フィードバック
	授業時間内での質問受付と回答。課題についてはプレゼンテーション後の講評でフィードバックする。

Back			
授業科目名〔単位数〕 大分学〔2〕 担当教員名(授業形態) 橋本 譲司(単独)			
実務経験	なし	資格、免許又は実務経験等	
共同担当教員名 安達美和子			
受講対象	食留2	履修法	講義
学科等	基礎科目	学びの三要素	☒ 知識・技能 ☒ 主体性・意欲 ☐ 就業力・協働
アクティブラーニングの要素 ☐ PBL(課題解決型学習) ☐ 反転授業 ☐ ディスカッション、討論、ディベート ☐ グループワーク			
科目の到達目標 ①大分県内の特色(歴史・人物・文化・産業等)について学ぶ。 ②大分県の魅力を全国に発信することができる。			
授業の目的・概要 この講義は、大分県研究会の会員を招へいし、大分県を多面的に捉え、地域愛、大分愛を育てます。 大分県は、個性豊かな温泉地が点在し、海あり山ありの自然に恵まれ、また豊かな食材の宝庫であり、多彩な地域文化が今もたくさん存在しています。それらの魅力を分類し、分野ごとに学びます。本講義では、温泉コンシェルジュとして必要な大分県全般について学び、顧客に対して適切に大分県の魅力を説明・案内できる基礎力を身に付けます。			
ディプロマポリシーとの関係 地域社会への貢献を果たすべく、高い専門性を修得を図り、豊かな人間性を育む授業			
授業計画 1. 「大分学」について、授業内容の説明 2. 歴史…大分を作った人たち①学問と教育に生涯を捧げた先哲 3. 歴史…大分を作った人たち②海防・医学・本草学の発展に多大な貢献 4. 歴史…大分を作った人たち③シーボルトと蘭語で話した中津藩主 5. 文化・芸術…大分を彩る文化芸術①伝統と革新の日本画 6. 文化・芸術…大分を彩る文化芸術②別府に生まれた人間国宝 7. 文化・芸術…大分を彩る文化芸術③巨岩壁に刻まれた仏たち、大分の石橋 8. 食…食は大分に在り、美味求真の世界①日本最古のかぼちゃ、宗廟南瓜 9. 産業…大分を支える産業①大分のユニークな企業群 10. 自然…大分を豊かにする自然の恵み①大分は九州の自然博物館(フィールドワーク) 11. 自然…大分を豊かにする自然の恵み②豊後大野市・姫島村のジオパーク(フィールドワーク) 12. 自然…大分を豊かにする自然の恵み③国東半島宇佐地域の世界農業遺産(フィールドワーク) 13. 温泉…日本一のおんせん県おおいた①“人脈観光地”湯布院温泉 14. 温泉…日本一のおんせん県おおいた②炭酸の恵み 長湯温泉 15. まとめ			
認定試験	実施しない		
準備学習(予習・復習)	授業での配布資料やその他関連資料を活用し、予習・復習を行うこと。(30分程度) また、学習した地域等を各自で可能な限り訪問してみる。		
評価方法	レポート50%、小テスト30%、授業中の積極性20%による総合評価		
基準	S: 到達目標を十分に理解できる A: 到達目標を理解できる B: 到達目標を概ね理解できる C: 到達目標を理解できるように努めている		
テキスト	「まるごとわかる大分県」辻野 功ほか著 明石書店		
オフィスアワー	授業の前後に教室で受け付ける。		
備考	今後の活動や仕事等で活用できるように、講義ではメモを取り、ノート整理を行うこと。大分学検定の受験を推奨する。		

大分工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	社会技術概論	
科目基礎情報							
科目番号	R05AC1001			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科共通専門科目			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	堀井秀之 (2012) 『社会技術論』東京大学出版会						
担当教員	中山 陽介						
到達目標							
(1) 社会技術に関し, 多角的に思考することができる。(試験評価, 発表・相互評価) (2) 社会技術の要諦を理解することができる。(試験評価, 発表・相互評価) (3) 具体的事案にそくし, 体系的に議論することができる。(試験評価, 発表・相互評価) (4) 将来起こりうる事態に際し, 積極的な解決施策を提案できる。(試験評価, 発表・相互評価)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標 (1) の評価指標	社会技術に関し, 多角的に思考することが十分にできる.		社会技術に関し, 多角的に思考することがある程度できる.		社会技術に関し, 多角的に思考することができない.		
到達目標 (2) の評価指標	社会技術の要諦を理解することが十分にできる.		社会技術の要諦を理解することがある程度できる.		社会技術の要諦を理解することができない.		
到達目標 (3) の評価指標	具体的事案にそくし, 体系的に議論することが十分にできる.		具体的事案にそくし, 体系的に議論することがある程度できる.		具体的事案にそくし, 体系的に議論することができない.		
到達目標 (4) の評価指標	将来起こりうる事態に際し, 積極的な解決施策を提案することが十分にできる.		将来起こりうる事態に際し, 積極的な解決施策を提案することがある程度できる.		将来起こりうる事態に際し, 積極的な解決施策を提案することができない.		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (A2) 学習・教育目標 (E2) JABEE 1.2(b) JABEE 1.2(d)(1)							
教育方法等							
概要	現代社会における社会技術について様々な角度から分析し, 技術者として身につけておくべきセンスの獲得をはかる. 内容の特性上, 積極的な発言, 主体的な参加を特に重視する. なお, 本社会技術概論は, AE教育対応科目である.						
授業の進め方・方法	【授業の進め方】多様な方式を組み合わせで行います. 主体的な参加を求めます. 【授業内容・方法】社会技術に関する諸問題を扱います. 【事前学習】しっかりと予習を行うこと. プレゼンの際は綿密に準備を行うこと.						
注意点	(履修上の注意) 講義や発表等には真剣に取り組むこと. (自学上の注意) 予習復習や発表準備等を綿密に行うこと.						
評価							
到達目標 (1) (2) (3) (4)につき1回の試験等により評価. 【総合評価】発表・相互評価 (60%) + 試験 (40%) = 総合評価 【合格ライン】総合評価60点以上を合格とします. ただし, 試験を受験しない者には単位を認定しません. 【再試験】実施しません.							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
必修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・フォーカスグループの確定		シラバスを理解してフォーカスグループを作成する		
		2週	社会技術の概念		社会技術の概念を理解する		
		3週	問題解決のプロセス		問題解決のプロセスを理解する		
		4週	問題の分析		問題分析の方法を理解する		
		5週	問題解決策の立案		問題解決策の立案ができるようになる		
		6週	問題解決策の影響分析・評価		問題解決策の影響分析と評価ができるようになる		
		7週	ソーシャルエンタープライズ (社会的企業) の設計		社会的企業の設計ができるようになる		
		8週	政治過程分析と社会技術		政治過程と社会技術の関係性を理解する		
	4thQ	9週	ケースメソッドと社会技術		社会技術に関するケースメソッドを理解する		
		10週	フォーカスグループによるプレゼン (ただし, それまでの授業の進行具合によっては, 第 9 週までの未了分の授業を行う)		フォーカスグループによるプレゼンを行う (未了分の授業を行う場合は当該授業内容を理解する)		
		11週	フォーカスグループによるプレゼン (ただし, それまでの授業の進行具合によっては, 第 9 週までの未了分の授業を行う)		フォーカスグループによるプレゼンを行う (未了分の授業を行う場合は当該授業内容を理解する)		
		12週	フォーカスグループによるプレゼン (ただし, それまでの授業の進行具合によっては, 第 9 週までの未了分の授業を行う)		フォーカスグループによるプレゼンを行う (未了分の授業を行う場合は当該授業内容を理解する)		
		13週	フォーカスグループによるプレゼン (ただし, それまでの授業の進行具合によっては, 第 9 週までの未了分の授業を行う)		フォーカスグループによるプレゼンを行う (未了分の授業を行う場合は当該授業内容を理解する)		
		14週	フォーカスグループによるプレゼン (ただし, それまでの授業の進行具合によっては, 第 9 週までの未了分の授業を行う)		フォーカスグループによるプレゼンを行う (未了分の授業を行う場合は当該授業内容を理解する)		
		15週	学年末試験		到達目標1/2/3		
		16週	学年末試験の解説		学年末試験の内容を理解する		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	相互評価	合計	
総合評価割合	40	30	30	100	
基礎的能力	10	10	10	30	
専門的能力	10	10	10	30	
分野横断的能力	20	10	10	40	